

令和 2 年 度

まち・ひと・しごと創生事業 実績評価

伊 東 市

伊東市まち・ひと・しごと創生事業 令和2年度実績評価について

本市では、国における「まち・ひと・しごと創生」の方針を踏まえ、本市が目指すべき将来展望を示した「人口ビジョン」と、本市が今後とも存続し続け更に発展していくために、新たなまちづくりに踏み出していくための指針として「総合戦略」を策定し、取組を進めています。

「伊東市まち・ひと・しごと創生総合戦略」は、平成27年度から令和元年度までの5年間の計画期間としていましたが、重要業績評価指標（KPI）の適切な設定及び効果的な進捗管理を行うため、「総合戦略」を1年間延長し、令和2年度までの6年間の計画期間としました。

取組の最終年度となる令和2年度が終了したことから、総合戦略に記載された基本目標及び具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）・地方創生推進交付金を活用して実施した事業の評価及び検証を行います。

また、令和3年度以降は、新たに策定された「第2期伊東市まち・ひと・しごと創生総合戦略」に基づき、基本目標及び具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）に対する実績を評価及び検証することで総合戦略を推進していきます。

1 対象事業

令和2年度中に実施された、まち・ひと・しごと創生事業

2 対象の指標と様式

(1) まち・ひと・しごと創生事業 令和2年度実績評価シート【基本目標】

総合戦略に記載された【基本目標】の評価・検証を行います。

(2) まち・ひと・しごと創生事業 令和2年度実績評価シート【具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）】

総合戦略に記載された【具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標（KPI）】の評価・検証を行います。

(3) 地方創生推進交付金事業（横展開タイプ） 令和2年度実績評価シート【重要業績評価指標（KPI）】

地方創生推進交付金（横展開タイプ）を活用して実施した事業の【重要業績評価指標（KPI）】の評価・検証を行います。

3 評価の基準

- A：順調…目標を達成し、かつ目標を大幅に（120%程度）上回っているもの
- B：概ね順調…目標を達成している、又は達成していない場合でも達成と同様とみなせる特段の理由があるもの
- C：やや遅れ…目標を達成していないもの
- D：遅れ…目標を達成しておらず、かつ基準年度より悪化しているもの
- E：未実施…令和2年度は未実施であるもの（未評価のものを含む。）

4 評価の概要（総括表）

		評価					計
		A	B	C	D	E	
基本目標		0	1	2	3	0	6
具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標(KPI)	1:安定した雇用	4	3	3	0	1	11
	2:ひとの流れ	0	2	1	1	6	10
	3:結婚・出産・子育て	0	5	11	4	1	21
	4:安心なくらし	2	9	6	7	1	25
交付金事業(横展開タイプ)の重要業績評価指標(KPI)		0	1	1	2	0	4
計		6	21	24	17	9	77

※詳細については、「まち・ひと・しごと創生の施策・事業等の指標一覧」を参照

5 その他

令和2年度の評価については、新型コロナウイルス感染症の影響は考慮せず、評価の基準に従い判定しましたが、特に新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた事業については、「課題」や「今後の取組」欄にその影響等を記載しています。

まち・ひと・しごと創生の施策・事業等の指標一覧

1 基本目標

No.	目標・施策・事業名	指標・KPI名	評価	担当部課
1	1 安定した雇用を創出する	有効求人倍率	D	観光経済部 産業課
2	2 新しいひとの流れをつくる	社会増減数(転入者数－転出者数)	C	企画部 企画課
3		来遊客数	D	観光経済部 観光課
4	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる	合計特殊出生率	D	健康福祉部 子育て支援課
5		待機児童数	C	教育部 幼児教育課
6	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する	健康寿命(お達成度)	B	健康福祉部 健康推進課

まち・ひと・しごと創生の施策・事業等の指標一覧

2 具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標(KPI)

(1) 安定した雇用を創出する

No.	目標・施策・事業名	指標・KPI名	評価	担当部課
7	1① 農業の担い手の育成・確保及び交流の推進	新規就農者数	A	観光経済部 産業課
8	1② 地産地消の推進	飲食店における地魚取扱店舗数	C	
9	1③ 安定した漁業の推進	計画策定に伴う協議会設立加盟団体数	A	
10	1④ 地域の商業活性化	ブランド品目創出数	A	
11	1⑤ 商工業への支援体制強化	参加店舗の売上増加率	A	
12	1⑥ 起業の促進	新規創業件数	C	
13	1⑦ 本市の自然環境等の特性に合った企業誘致	新規企業立地件数	B	企画部 企画課
14	1⑧ 介護資格者の育成	介護職員初任者研修を修了し、介護保険事業所で引き続き雇用された人数	E	健康福祉部 高齢者福祉課
15	1⑨ 男女共同参画の推進	男女共同参画社会づくり宣言事業所数	B	市民部 市民課
16		市役所における指導的地位(係長相当職以上)に占める女性の割合	B	企画部 秘書課
17		公的な会議等の場における女性の割合	C	市民部 市民課

(2) 新しいひとの流れをつくる

No.	目標・施策・事業名	指標・KPI名	評価	担当部課
18	2① 地方移住の推進	移住相談件数	B	企画部 企画課
19	2② 交流人口の拡大	外国人観光客の宿泊者数	E	観光経済部 観光課
20		免税店登録数	E	
21		生産年齢人口の減少数	C	企画部 企画課
22		モニターツアー参加者の満足度	E	観光経済部 観光課
23		インターンシップ参加者のうち本市に魅力を感じる人の割合	E	
24		来訪者の満足度	D	
25		伊豆半島7市6町の観光交流客数	E	
26		記念イベントの集客数	E	
27	2③ 地域の商業活性化	((にぎわいづくり)事業の利用団体数	B	観光経済部 産業課

まち・ひと・しごと創生の施策・事業等の指標一覧

(3) 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる

No.	目標・施策・事業名	指標・KPI名	評価	担当部課
28	3① 子育て世帯の経済的支援の推進	出産・子育て支援に関する満足度	C	健康福祉部 子育て支援課
29	3② 安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり	地域ぐるみの子育て支援実施箇所数	C	
30	3③ 周産期及び小児医療体制の推進	産科、小児科(療育)に携わる医師数	D	
31	3④ 妊娠・出産のための健康づくりと正しい知識の普及	正しい知識についての理解度	C	
32	3⑤ ひとり親家庭等の自立促進	ひとり親家庭等の相談件数	C	
33	3⑥ 子育てにおけるワーク・ライフ・バランスの推進	ファミリー・サポート・センター登録会員数	C	
34	3⑦ 子どものふれあいの場の提供	児童館年間利用者数	D	
35	3⑧ 保育の充実	子育て世帯の保育所施設利用に係る満足度	C	教育部 幼児教育課
36		多様な保育事業取組に対する保育所利用者満足度	B	
37		地域子育て支援拠点施設利用者・要家庭支援者への取組や内容に対する満足度	C	
38		待機児童数	C	
39		障がい児等の認可保育所受入れ及び相談支援に対する利用者満足度	C	
40		新設認定こども園数	C	
41		幼稚園に行くのを楽しみにしている園児の割合	B	
42	3⑨ 幼稚園教育の充実	(子育て)相談窓口設置に対する保護者の満足度	B	
43		預かり保育を実施している市立幼稚園の数	B	
44		子ども子育て支援新制度に移行済の幼稚園数	B	
45	3⑩ 学校における教育環境の整備	学校が楽しいと思う子どもの割合	D	教育部 教育指導課
46	3⑪ 地区青少年健全育成活動の活発化	放課後子ども教室数	C	教育部 生涯学習課
47		地域子ども会の会員数	E	
48		地域ぐるみの青少年健全育成活動参加者総数	D	

まち・ひと・しごと創生の施策・事業等の指標一覧

(4) 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する

No.	目標・施策・事業名	指標・KPI名	評価	担当部課
49	4① 健康づくりの推進	すべての死因における対県比標準化死亡比	D	健康福祉部 健康推進課
50		歯科衛生教育年間延べ実施者数	D	
51		元気な高齢者の割合	D	健康福祉部 高齢者福祉課
52		ボランティア研修開催回数	B	
53		介護保険制度の満足度	E	
54		(在宅医療、介護連携)取組圏域数	B	
55		在宅医療を行う医師会医師数	A	健康福祉部 健康推進課
56		伊東市民病院後方支援医師数	B	
57	4② 生涯学習活動の推進	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	C	教育部 生涯学習課
58	4③ 市民スポーツ活動の支援	スポーツ施設の年間延利用者数	D	
59	4④ 歴史・芸術文化の振興	歴史文化に触れた人数	D	
60		芸術文化に触れた人数	D	
61	4⑤ 国際交流の推進	国際交流に関する体験や行事に参加した割合	C	企画部 秘書課
62	4⑥ 地域活動・市民活動への支援	まちづくり事業実施団体登録件数	B	企画部 秘書課・企画課
63	4⑦ 安全・安心なくらしを守るための取組	(地震対策アクションプログラム)完了アクション数	C	危機管理部 危機対策課
64		消防団員数	D	
65		公共施設の除却件数(累計)	B	総務部 財政課
66		(水道)料金値上げ	B	上下水道部 水道課
67		(水道)有収率	C	
68		(水道)基幹管路の耐震化率	C	
69		下水道管きよの長寿命化、耐震化実施率	B	上下水道部 下水道課
70		下水道処理施設、最初沈殿池の長寿命化、耐震化	B	
71		水洗化率	C	
72		道路施設の長寿命化完了数	B	
73		橋りょうの長寿命化完了数	A	

3 地方創生推進交付金事業(横展開タイプ)

74	ずっと住みたい また来たい いう創生事業	市町村魅力度ランキング(出典:地域ブランド調査)	D	観光経済部 観光課
		観光交流客数(静岡県発表)	D	観光経済部 観光課
		メディア露出に伴う広告換算費	C	観光経済部 観光課
		移住相談件数	B	企画部 企画課

No.1

基本目標	1 安定した雇用を創出する									
数値目標	有効求人倍率 1.00以上を維持						指標担当部課	観光経済部 産業課		
設定根拠	雇用創出を測る指標として、ハローワークが発表し容易に入手しやすい有効求人倍率を採用した。 一の求職に対し、一以上の求人があるという指数の維持を目標とした。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
1.30 倍		26	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00	1.00 倍以上		令和2
実績値			1.60	2.06	1.71	1.55	1.22	0.89		
実績値の計算方法	ハローワーク提供資料									
評価	D	評価の理由	目標値及び基準年度実績値を下回ったため							
課題	新型コロナウイルス感染症の状況に伴い変化する雇用情勢の現状把握に努める必要がある。									
今後の取組	雇用問題対策会議の開催により雇用情勢の現状把握に努めていくとともに、新型コロナウイルス感染症の状況に応じた経済対策を検討、実施することにより雇用の安定を図っていく。									

No.2

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる									
数値目標	社会増減数(転入者数－転出者数)						指標担当部課	企画部 企画課		
設定根拠	国立社会保障人口問題研究所によれば、2060年の本市の人口は33,000人と推計されている。人口減少に歯止めをかけるため、合計特殊出生率について現状の1.49から2020年に1.59を達成し、以後は維持するとともに、社会増減数を平成27年度から31年度まで毎年300人の転入超過(以後は毎年150人の転入超過)を目指すことにより、2060年の本市の人口を42,000人程度確保するため。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
75人		平成26年	300	300	300	300	300	300人		令和2
実績値			94	△78	73	105	94	80		
実績値の計算方法	人口動態(各年12月31日現在)調査における、各年の社会増減数									
評価	C	評価の理由	目標値に対して未達となったが、基準年度の実績値を上回っているため							
課題	転入者数は令和元年の2,491人と比べ、令和2年は2,318人と173人減少し、転出者数も令和元年の2,397人と比べ、令和2年は2,238人と159人減少した。人口の社会増減数を大幅に増加させるためには、本市へ移住を希望する幅広い世代の方々に伊東市の魅力とともに移住支援策をPRしていく必要がある。									
今後の取組	令和2年度に開設した「伊東市移住定住サイト」で首都圏を中心とした移住希望者に対し、地域の魅力を発信するとともに各種移住支援策をPRしていく。また、令和3年度においては、これまで以上に移住相談会に参加することで具体的な移住案件に対応し、本市への移住に繋げていきたい。									

No.3

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる									
数値目標	来遊客数						指標担当部課	観光経済部 観光課		
設定根拠	「新しいひとの流れをつくる」ためには、魅力ある観光地づくりを推進し、選ばれる観光地になることにより、交流人口の増加につなげることが重要であることから、来遊客数を指標に設定した。 静岡県の来遊客数の目標値を参考に設定した。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
628 万人		平成26年	640	655	670	685	700	700 万人		令和2
実績値			643	655	665	656	662	483		
実績値の計算方法	市独自調査による。切符乗車による鉄道の利用者、定点観測による自動車の通過台数等に一定の率をかけ算出。									
評価	D	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により大幅に来遊客数が減少し、目標値及び基準年度の実績値を下回ったため							
課題	数年横ばいで維持してきた来遊客数であったが、新型コロナウイルス感染症の影響で大幅に減少してしまった。これまで本市ではイベントによる誘客に注力していたが、この感染症の流行により、今後イベントの開催が難しくなるケースが考えられることも踏まえ、これからの誘客の方法について再検討が必要である。									
今後の取組	今後についても、新型コロナウイルス感染症の収束の見込みが立たない中で、人と人との距離の確保が困難なイベントによる集客ではなく、地域としての魅力を広く発信し、いつ本市を訪れても同じようにお客様に楽しんでいただけるような仕組み作りに注力していく。									

No.4 _____

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる									
数値目標	合計特殊出生率						指標担当部課	健康福祉部 子育て支援課		
設定根拠	1人の女性が生涯に生むと見込まれる子どもの数。その年の15歳から49歳までの女性が産んだ子どもの数を元に算出する。人口を維持できる水準は2.07とされ、将来の人口が増えるか減るかをみる指標となるため。 ※従前値：厚生労働省「平成20年～24年人口動態保健所・市区町村別統計」より									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
1.49 人		20～24	1.506	1.522	1.538	1.554	1.57	1.59 人		令和2
実績値			-	1.40	1.38	1.34	1.33	1.28		
実績値の計算方法	15～49歳の女性の年齢別出生率を合計したもの。									
評価	D	評価の理由	合計特殊出生率は5年に1度公表されるため、市独自の計算により算出した合計特殊出生率で評価する。少子化対策の一環として子育てしやすい環境づくりとして様々な取組を実施しているが、目標値を下回り、かつ基準年度の実績値も下回ったため							
課題	子育て世帯への経済的支援、子育てしやすい環境づくり等を実施しているが、実績は減少しているため、更なる出生数向上に向けた施策に積極的に取り組む必要がある。									
今後の取組	県が進めている少子化突破の制度の活用や、子育て支援に有効と思われる他市町の施策を参考に、本市での子育て支援施策を推進させていくことで合計特殊出生率の向上に繋げていく。									

No.5

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる									
数値目標	待機児童数						指標担当部課	教育部 幼児教育課		
設定根拠	就労しながら安心して子育てができる環境を示す値として、待機児童数の削減が最も適すると思われるため。5年間で0人にすることを目標とした。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
25 人		27	25	25	20	10	0	0 人		令和2
実績値			25	33	20	37	11	5		
実績値の計算方法	各年度4月1日現在の保育所待機児童数									
評価	C	評価の理由	待機児童数が対前年度比6人減となったが、目標値に達していないため							
課題	定員に余裕があっても、希望する地域や年齢の受入枠と合わないことが課題となっている。 (令和3年度実績値1人)									
今後の取組	施設整備、一時預かり事業の実施、公立保育園における受入れ拡大策について検討する。									

No.6

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
------	---

数値目標	健康寿命(お達者度)	指標担当部課	健康福祉部 健康推進課
------	------------	--------	-------------

設定根拠	超高齢社会の中で、65歳から介護や支援を受けず健康に過ごせる年数(お達者度)を指標とし、市民に生活習慣の改善を浸透させ、健康寿命の延伸に繋げるため。市の総合計画の最終計画年度(平成32年度)に、平成23年基準の県平均に到達するよう目標値を設定した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1	令和2			
男性16.77 女性19.93	年	平成23年	16.87 20.04	16.97 20.15	17.08 20.27	17.18 20.38	17.28 20.50	男性17.28 女性20.50	年	令和2
実績値			17.45 20.50	17.48 20.30	17.58 20.43	—	—	—		

実績値の計算方法	65歳から自立して健康に過ごせる年数(要介護2~5の認定を受けていない年数)		
----------	--	--	--

評価	B	評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値(H25男性:16.91、女性:20.21/H26男性:16.93、女性:20.25/H27男性17.45、女性20.50/H28男性17.48、女性20.30/H29男性:17.58、女性20.43) ・平成29年度の最新データを基に評価することとし、従前値と最新データを比較すると、男性、女性とも「お達者度」が増加している。しかし、県下順位では男性、女性とも下位に位置するため、生活習慣病予防等施策の強化が必要である。
----	---	-------	--

課題	男性のお達者度が低く、県下では男女ともに下位となっていることが課題となっている。		
----	--	--	--

今後の取組	お達者度を下げる主な要因は生活習慣病である。生活習慣病の早期発見、治療のための健診受診を勧めるとともに、食生活・運動及び喫煙・アルコール摂取量の改善のための健康教育を実施する。		
-------	--	--	--

No.7

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	① 農業の担い手の育成・確保及び交流の推進

KPI	新規就農者数	指標担当部課	観光経済部 産業課
-----	--------	--------	-----------

設定根拠	農業の担い手の育成・確保及び交流の推進を図るには、新規就農者数の増加が不可欠なため。目標値については、平成27年度から平成30年度の実績、令和元年度、令和2年度目標数の合算数値とする。		
------	--	--	--

従前値	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		一人	(新規)	2	2	2	2		2
実績値		2	4	4	5	6	24(累計)		

実績値の計算方法	新規就農者数実績		
----------	----------	--	--

評価	A	評価の理由	目標値を上回ったため
----	---	-------	------------

課題	相談者の多くは、就農に関する情報を持っておらず、多くの関係機関が関わるため、情報の共有化と相談者のニーズに応じた対応が望まれる。		
----	--	--	--

今後の取組	農業委員会、JAあいら伊豆及び関係機関等と連携し、新規就農に関する情報の共有化を進め、相談者へ情報提供していく。		
-------	--	--	--

No.8

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	② 地産地消の推進

KPI	飲食店における地魚取扱店舗数	指標担当部課	観光経済部 産業課
-----	----------------	--------	-----------

設定根拠	1次産業から3次産業までの関係団体で水産業の6次産業化に取り組み、地魚の普及や販路拡大、情報の受発信体制(ホームページ)の構築やイベントを通して、地魚の高付加価値を創出し、水産業から地域の活性化に繋げる「伊豆・いとう地魚王国事業」の計画時において、飲食店等における地魚取扱店5店舗を目標としていたため。目標値については、令和2年1月現在の伊豆・いとう地魚王国の加盟店舗数(36店舗)及び令和2年度の目標新規加盟店舗数(5店舗)の合算としている。		
------	--	--	--

従前値	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		一 店舗	(新規)	5	5	5	5		5
実績値		10	14	7	3	3	37(累計)		

実績値の計算方法	飲食店における地魚取扱店舗実績		
----------	-----------------	--	--

評価	C	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により「伊豆・いとう地魚王国」の事業活動が縮小され、飲食店等事業者への働きかけができず、目標値を達成できなかったため
----	---	-------	---

課題	市内で扱う地魚の良さ(ポテンシャル)、事業所や店舗において地魚を取り扱うことのメリット、効果に対する認知度が低い。地魚を取扱うこと(地魚王国への加盟)によるメリットを加盟店が感じられるよう、事業ターゲットの明確化を進め、地魚の資源価値を高める必要がある。		
----	---	--	--

今後の取組	取扱店の声を聴く中で、地魚の資源価値を高めつつ、取扱店にとって効果的な事業を検討・協議を図り、取扱店の増加を目指していく。		
-------	---	--	--

No.9

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	③ 安定した漁業の推進

KPI	計画策定に伴う協議会設立加盟団体数	指標担当部課	観光経済部 産業課
-----	-------------------	--------	-----------

設定根拠	定置網により水揚げされる魚種が豊富であるという強みを活かすため、官民一体となった協議会を設立し、水産業を強化するための計画策定を支援することにより、水産業の発展及び水産物の安定供給体制の確立につなげることにしていたが、事業計画時において、協議加盟5団体を目標としていたため。		
------	---	--	--

従前値	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		— 団体	(新規)	5	5	5	5		5
実績値		7	7	7	7	7	7		

実績値の計算方法	協議会加盟団体数実績		
----------	------------	--	--

評価	A	評価の理由	目標値を上回ったため
----	---	-------	------------

課題	高品質生産を目指した生産段階における水産物の取り扱いの意識・行動レベルが徹底されていないため、引き続き市場関係者の改革を図る必要がある。		
----	--	--	--

今後の取組	高品質生産を目指した生産段階における水産物の取り扱いガイドラインの作成、魚市場の整備を軸とした水産業の競争力強化や高付加価値化を進めていくとともに、積極的な情報発信による販売力強化に向けた検討を行う。		
-------	--	--	--

No.10

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	④ 地域の商業活性化

KPI	ブランド品目創出数	指標担当部課	観光経済部 産業課
設定根拠	地域の商業活性化を目的とした伊東ブランド創出事業計画時において、20品目から30品目の商品を恒常的に伊東ブランド商品とすることを目標としていたため。 目標値については、令和2年1月現在の伊東ブランド商品認定品目数と令和2年度の目標品目数の合算数値とする。 なお、伊東ブランド商品認定品目数は、製造中止や認定の更新申請がされなかった商品などもあり、令和3年6月現在48品目となっている。		

従前値	(単位)	基準年度					R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30					
一品目	(新規)	5	5	5	5	5	54(累計)品目		令和2	
実績値		31	27	0	4	3	65(累計)			

実績値の計算方法	伊東ブランド認定実績		
----------	------------	--	--

評価	A	評価の理由	令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響によりブランド認定審査会を見送ったが、ブランド認定基準の厳格化を進めてきた結果、総体的に適正な数の伊東ブランド認定品を創出し、目標値を上回ったため
----	---	-------	--

課題	伊東ブランドに認定されることによるメリットが生じるよう、有効な施策を検討していく必要がある。
----	--

今後の取組	引き続き、伊東ブランドに認定されることによるメリットが生じるよう有効な施策を検討していくとともに、効果的な広報周知を行っていく。
-------	--

No.11

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	⑤ 商工業への支援体制強化

KPI	参加店舗の売上増加率	指標担当部課	観光経済部 産業課
-----	------------	--------	-----------

設定根拠	意欲ある個店を対象に適切な経営支援強化を行うことにより、売上の増加が図られると見込まれるため、個店活力推進事業の近年の実績における平均売上増加率を指標に設定した。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
4.7 %		26	4	4	4	4	4	4 %	令和2	
実績値			8.7	-0.6	13.6	0.4	3.5	9		

実績値の計算方法	伊東産活力創出事業実績		
----------	-------------	--	--

評価	A	評価の理由	参加店舗の売上増加率の平均値が目標値を上回ったため
----	---	-------	---------------------------

課題	今後は、コロナ禍による経営を取り巻く環境を把握し、適正なコンサルティングを検討していく必要がある。		
----	---	--	--

今後の取組	コロナ禍による経営を取り巻く環境を把握し、適正なコンサルティングを検討していく。		
-------	--	--	--

No.12

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	⑥ 起業の促進

KPI	新規創業件数	指標担当部課	観光経済部 産業課
-----	--------	--------	-----------

設定根拠	起業促進策の効果を測る指標として、新規創業件数が最も適すると判断した。 目標値については、平成27年度から平成30年度までの実績、令和元年度の見込件数、令和2年度の目標数の合算数値とする。 なお、令和2年度の目標数は、平成29年度から令和元年度までの平均数値16件とする。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	実績値						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		基準年度	H27	H28	H29	H30	R1			
9 件		26	6	6	6	6	6	110(累計) 件		令和2
実績値			13	34	16	16	12	105(累計)		

実績値の計算方法	起業支援及び空き店舗対策事業実績		
----------	------------------	--	--

評価	C	評価の理由	目標値を下回ったため
----	---	-------	------------

課題	起業後のフォローアップをさらに充実させていく必要がある。
----	------------------------------

今後の取組	新型コロナウイルス感染症が起業者に与える影響の把握に努め、利用者のニーズに合わせた制度を常に検討していく。
-------	---

No.13

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	⑦ 本市の自然環境等の特性に合った企業誘致

KPI	新規企業立地件数	指標担当部課	企画部 企画課
設定根拠	本市の特性上、一団の工業団地を造成し、企業誘致を行うことは現実的ではない。代わりに、例えばIT関連等、本市の自然環境に影響がなく、都心や幹線道路から離れても事業運営に影響が出ない業種の法人等による企業立地件数を指標とした。基準年度において実績がないため、令和元年度に1件の実績が出ることを目標とした。また、目標年度の延長に伴い、目標値をR1実績見込値の1件増とした。		

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
0 件		26	0	0	0	0	1	2 件	令和2	
実績値			0	0	0	1	1	2		

実績値の計算方法	指標担当部課に相談の上、企業立地が行われた件数		
評価	B	評価の理由	目標値を達成したため
課題	本市の立地上、工場等の誘致はなじまず、IT関連のサテライトオフィス等の誘致の方が本市の特性にマッチしていることから、平成29年度からサテライトオフィス設置に係る補助制度を創設し、誘致に取り組んできたところであるが、その他にも、企業側のニーズを捉え、効果的な施策を検討していく必要がある。		
今後の取組	引き続き、サテライトオフィスやテレワークに興味のある首都圏等の企業に対し補助制度を周知するとともに、誘致戦略を策定し実行することで、積極的な誘致をしていく。		

No.14

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	⑧ 介護資格者の育成

KPI	介護職員初任者研修を修了し、介護保険事業所で引き続き雇用された人数	指標担当部課	健康福祉部 高齢者福祉課
-----	-----------------------------------	--------	--------------

設定根拠	地方創生先行型交付金を活用し、介護保険事業所に業務委託し、業務に従事させながら訓練を行うとともに、介護資格取得のための研修の受講により人材育成を図った。その後、介護保険事業所で引き続き雇用されることにより、介護資格者の育成につながると考えたため。市内5圏域から各圏域1事業所ずつ委託する予定であったが、受託希望が4事業所であったため。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
一人		(新規)	4	-	-	-	-	4人		平成27
実績値			2	-	-	-	-	-		

実績値の計算方法	事業終了に伴い、実績値の計算はない。									
----------	--------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	E	評価の理由	地方創生先行型交付金を活用した平成27年度事業として終了したため							
----	---	-------	----------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

課題	介護職の定着率の低さと慢性的な人員不足が課題となっている。									
----	-------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	静岡県と連携し介護人材の育成を進めるとともに、教育現場における介護現場の正しい理解、魅力発信及び元気な高齢者の参入等により人材を確保し、増え続ける高齢者に対応できる地域包括ケアシステムの構築を目指す。									
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.15

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	⑨ 男女共同参画の推進

KPI	男女共同参画社会づくり宣言事業所数	指標担当部課	市民部 市民課
-----	-------------------	--------	---------

設定根拠	静岡県では「男女共同参画社会づくりに関する取組を宣言」する企業を「宣言事業所」として広くPRしている。 この宣言事業所が増加することで、従業員の子育てや介護、個性と能力の発揮、仕事と生活の調和など、男女共同参画社会づくりを推進する労働環境が整備されると考え指標とした。H27～R1については年間1事業所ずつの増を目標とし、計画期間の延長に伴い、R2目標値はR1実績見込み値とする。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
33 事業所		26	34	35	36	37	38	62 事業所		令和2
実績値			57	59	62	62	60	62		

実績値の計算方法	静岡県男女共同参画課が公表する「宣言事業所・団体一覧」に掲載された事業所及び団体の事業所数		
----------	---	--	--

評価	B	評価の理由	目標値を達成したため
----	---	-------	------------

課題	男女共同参画社会づくり宣言事業所登録制度について、啓発を進めていく必要がある。
----	---

今後の取組	広報紙やホームページ等を利用した情報発信を行い、制度の周知と登録を呼びかける。
-------	---

No.16

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	⑨ 男女共同参画の推進

KPI	市役所における指導的地位(係長相当職以上)に占める女性の割合	指標担当部課	企画部 秘書課
設定根拠	女性職員の業務に対するモチベーションと能力の向上を図るとともに、仕事と家庭を両立できる職場環境の整備を進め、女性職員を積極的に登用することで、男女共同参画の推進を図るため。 国の動向に合わせ、計画最終年度の目標値を30%に設定した。		

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
27 %		27	27	28	29	30	30 %		令和2	
実績値		27	28	30	33	32	31			

実績値の計算方法	指導的地位(係長相当職以上)の女性職員数 / 指導的地位(係長相当職以上)の全職員数								
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	B	評価の理由	実績値が目標値を上回ったため						
----	---	-------	----------------	--	--	--	--	--	--

課題	女性職員の管理職登用に向けた研修の充実や女性職員が継続して働き続けることができる職場環境を、より一層整備していくことで、安定的に指導的地位(係長相当職以上)に占める女性の割合を高めていく必要がある。								
----	---	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	<ul style="list-style-type: none"> 女性職員の様々なライフイベントに合わせ、管理職登用に向けたキャリア形成を推進するとともに、仕事へのモチベーションを向上させることを目的としたキャリアデザイン研修等を実施する。 高度な専門知識を習得するため、自治大学校等の研修専門機関での派遣研修を実施する。 職員の資質、専門知識及び技術を向上させるため、職員自らが企画して実施する特別研修制度の利用を推進する。 								
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.17

基本目標	1 安定した雇用を創出する
具体的な施策	⑨ 男女共同参画の推進

KPI	公的な会議等の場における女性の割合	指標担当部課	市民部 市民課
-----	-------------------	--------	---------

設定根拠	地方自治法第202条の3に規定される審議会等における女性委員等の割合を高めることで、女性の指導的地位が高まり、男女共同参画社会の実現に寄与するものと考え指標とした。 国の動向に合わせ、計画最終年度の目標値を30%に設定した。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	H27						R2(目標値)		(単位)	目標年度
		基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)			
16.8 %		27	16.8	20.1	23.4	26.7	30	30 %		令和2	
実績値			16.8	19.4	20.3	21.2	22.3	22.0			

実績値の計算方法	地方自治法(第202条の3)に基づく審議会等における女性委員数を委員総数で除したもの									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	C	評価の理由	目標値に届いていないため							
----	---	-------	--------------	--	--	--	--	--	--	--

課題	女性委員候補者の掘り起しを進めていく必要がある。									
----	--------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	委員会・審議会等において積極的な女性委員登用が図られるよう各課へ依頼し、女性登用率調べを行う。									
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.18

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	① 地方移住の推進

KPI	移住相談件数	指標担当部課	企画部 企画課
-----	--------	--------	---------

設定根拠
 従前は、移住相談の受付体制が整備されていなかったが、移住施策も含めた市の施策等をホームページ等で情報発信することにより、移住相談件数を徐々に増やしていき、移住者の増につなげていくため。
 基準年度では実績がなかったため、年間20件ずつ増やし、計画最終年度には120件にすることを目標とした。
 R1年度においてR2年度の目標値を上回ったが、新型コロナウイルス感染症の影響により、例年実施している首都圏での移住相談会の開催が見送られていることから、目標値は維持とする。

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
0 件		26	20	40	60	80	100	120 件		令和2
実績値			9	34	55	83	140	131		

実績値の計算方法
 指標担当部課に来庁、電話等で相談があった件数を計測

評価	B	評価の理由	実績値が目標値を上回ったため
----	---	-------	----------------

課題
 全国的に地方移住への関心が高まる中、本市を魅力的な移住先として認知してもらうことが必要である。

今後の取組
 首都圏で開催される県内市町合同移住相談会等に参加するとともに、リモートによる相談対応等も検討していく。あわせて、移住を検討している方にとって有用な情報を発信するためホームページの情報を更新していく。

No.19

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	② 交流人口の拡大（ア 外国人観光客の誘客推進）

KPI	外国人観光客の宿泊者数	指標担当部課	観光経済部 観光課
-----	-------------	--------	-----------

設定根拠	外国人観光客からの要望である無料公衆無線LAN等の整備を図り、来遊客の増加を図ることを示す指標の1つとして、宿泊者数が分かりやすい指標であるため。 静岡県の外国人観光客の宿泊者数の目標値を参考に設定した。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
52,383 人		26	80,000	85,000	90,000	95,000	100,000	100,000 人	令和2	
実績値			104,370	84,590	58,928	55,161	73,750	—		

実績値の計算方法	伊東温泉旅館ホテル協同組合及び伊東観光協会加盟宿泊施設における宿泊者調べ		
----------	--------------------------------------	--	--

評価	E	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響により外国人の来訪がなく集計しなかったため
----	---	-------	--------------------------------------

課題	新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドの集客は全く見通しが立たない。いつ収束するか分からない状況で、今後の誘客を見越した施策を実施していかなければならない。		
----	--	--	--

今後の取組	新型コロナウイルス感染症の収束後を見据え、外国人観光客に本市を訪れるきっかけを作る必要がある。令和元年度に実施したデジタルマーケティング施策を継続して実施し、認知度向上を図っていくとともに、集積したデータの分析を進め、誘客施策を立案していく。		
-------	---	--	--

No.20

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	② 交流人口の拡大（ア 外国人観光客の誘客推進）

KPI	免税店登録数	指標担当部課	観光経済部 観光課
-----	--------	--------	-----------

設定根拠	免税店登録数を増やすことにより、外国人観光客の購買意欲の向上やおもてなしの向上につながるため。目標値設定時の店舗数を基準とし、まずは倍に増やすことを目標とした。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
10 店舗		27	10	12	15	18	20	30 店舗	令和2	
実績値			10	11	26	27	27	10月発表		

実績値の計算方法	税務署に登録されている輸出物品販売店数(免税店)		
----------	--------------------------	--	--

評価	E	評価の理由	令和2年度数値についてはまだ未発表のため(国税局:輸出物品販売所名簿)
----	---	-------	-------------------------------------

課題	発表後記載		
----	-------	--	--

今後の取組	発表後記載		
-------	-------	--	--

No.21

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	② 交流人口の拡大（イ 本市の魅力の戦略的な発信）

KPI	生産年齢人口の減少数	指標担当部課	企画部 企画課							
設定根拠	本市の人口動態を見ると、男女とも20歳代前半での転出が多く、その後のUターン等による人口回復の動きも鈍化している。特に20・30歳代の若年層の女性の人口が減少しており、この年齢層の市外への流出をいかに食い止めるかが大きな課題となっていることから、生産年齢人口の減少数を抑えることを指標とした。 ただし、団塊の世代が既に高齢者になったことにより、生産年齢人口の減少数は今後少なくなると想定されるため、目標値は本市の人口分布から想定した。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
1,079 人		26	943	807	671	535	400	400 人		令和2
実績値			950	884	730	622	530	558		
実績値の計算方法	当年度及び前年度末の住民基本台帳人口及び外国人登録者数のうち、生産年齢人口(15歳から64歳まで)の比較									
評価	C	評価の理由	目標値に対して未達となったが、基準年度の実績値を上回っているため							
課題	生産年齢人口数は令和元年度末の33,522人から令和2年度末の32,964人となり、558人が減少した。生産年齢人口の減少数を抑制するためには、安定した雇用の場を確保することが必要となっている。									
今後の取組	令和3年度は首都圏企業のサテライトオフィス誘致戦略を策定し、マッチングイベントへの参加やPR冊子を作成することで企業誘致を強化していく。また、テレワーカーの移住を促進するため、魅力的な労働環境をコワーキングスペースとして民間事業者とともに整備することを目指す。									

No.22

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	② 交流人口の拡大（イ 本市の魅力の戦略的な発信）

KPI	モニターツアー参加者の満足度	指標担当部課	観光経済部 観光課
-----	----------------	--------	-----------

設定根拠	地域の魅力の発信を効果的に行えたかを測る指標の1つとして、モニターツアーの参加者の満足度が適当であるため。事業計画時において、モニターツアーの参加者の満足度を85%としていた。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		(新規)	85	-	-	-	-	85 %以上		平成27
実績値			95	-	-	-	-	-		

実績値の計算方法	モニターツアー参加者へのアンケート		
----------	-------------------	--	--

評価	E	評価の理由	平成27年度単年度事業であり、平成28年度以降は実施していないため
----	---	-------	-----------------------------------

課題	指標である本市の魅力の戦略的な発信の達成度を測るために実施していたモニターツアーについて現在は実施していない。継続して指標の達成度を測っていくための指標を設定しなければならない。		
----	---	--	--

今後の取組	同指標の達成度を測るため、観光客の来遊動機を把握するような調査研究事業を立案していく。		
-------	---	--	--

No.23

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	② 交流人口の拡大（イ 本市の魅力の戦略的な発信）

KPI	インターンシップ参加者のうち本市に魅力を感じる人の割合	指標担当部課	観光経済部 観光課
-----	-----------------------------	--------	-----------

設定根拠	地域の魅力の発信を効果的に行えたかを測る指標の1つとして、インターンシップ参加者のうち本市に魅力を感じる人の割合が適当であるため。 本市の来遊客のリピート率は60%(H26実績)であり、実際に事業等をきっかけに再訪問してもらうためには、80%の参加者に魅力を感じてもらいたいと考えた。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
－ %		(新規)	－	80	80	80	80	80 %以上		令和2
実績値			－	94	－	－	－	－		

実績値の計算方法	インターンシップ実施時のアンケート		
----------	-------------------	--	--

評価	E	評価の理由	平成28年度単年度事業であり、平成29年度以降は実施していないため
----	---	-------	-----------------------------------

課題	現在は、市外出身者のインターンシップを積極的に受け入れる施策を展開していないが、年間数件ではあるが市内出身者及び市内高等学校、中学校の生徒のインターンシップの受け入れを行っている。これらの件数自体が、本市の観光施策への興味と捉えれば、数としては決して多い数値ではない。
----	--

今後の取組	インターンシップを積極的に誘致するような事業の展開がなくとも、どのようにして観光客を呼び込んでいるのか、各事業を展開しているのか等の興味を持たれる自治体となるよう、各事業を展開する上でのプロセスについてもしっかりと組み立てていく。
-------	---

No.24

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	② 交流人口の拡大（ウ おもてなしの心の育成と交流の推進）

KPI	来訪者の満足度	指標担当部課	観光経済部 観光課
-----	---------	--------	-----------

設定根拠	伊東市を訪れた全ての観光客が、心身共に満足していただけることを目指すことから、来訪者の満足度を指標に設定した。計画最終年度に100%の満足度を目標とし、徐々に満足度を上げていくこととした。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
73 %		26	80	85	90	95	100	100 %	令和2	
実績値			69	79	80	75	62	57.6		

実績値の計算方法	1,700人を対象に年3回実施する伊東温泉観光実態調査による満足度		
----------	-----------------------------------	--	--

評価	D	評価の理由	目標値及び基準年度の実績値を下回ったため
----	---	-------	----------------------

課題	新型コロナウイルス感染症の影響で、観光することに対する印象も変わってきている状況ではあるが、2年連続で前年を下回る結果となっている。令和2年度については対面での聞き取り調査ということもあり、サンプル数が1,700人に届かず968人となった。今後も経年で数値の動きを見ていくために例年と同数のサンプルを集める必要がある。		
----	---	--	--

今後の取組	経年での数値の比較のために続けている本調査ではあるが、新型コロナウイルス感染症の影響により様々なものが見直されている中で実施していくために、聞き取りで実施している本調査の調査方法等について、どのような形で実施するのが最適か検討していく。		
-------	--	--	--

No.25

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	② 交流人口の拡大（ウ おもてなしの心の育成と交流の推進）

KPI	伊豆半島7市6町の観光交流客数	指標担当部課	観光経済部 観光課
-----	-----------------	--------	-----------

設定根拠	伊豆半島広域での交流の推進を測る指標として、伊豆半島7市6町の観光交流客数が最も適当であると考えたため。静岡県観光交流客数の動向を参考としながら算出した。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
3,950 万人		25	4,020	4,040	4,060	4,080	4,100	4,700 万人	令和2	
実績値			4,378	4,467	4,682	4,646	4,386	10月発表		

実績値の計算方法	県が実施する静岡県観光交流の動向調査による伊豆地域7市6町の観光交流客数		
----------	--------------------------------------	--	--

評価	E	評価の理由	令和2年度数値についてはまだ未発表のため(静岡県観光政策課:観光交流の動向調査)
----	---	-------	--

課題	発表後記載
----	-------

今後の取組	発表後記載
-------	-------

No.26

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	② 交流人口の拡大（エ 市制施行70周年記念事業と連携したイベントの開催）

KPI	記念イベントの集客数	指標担当部課	観光経済部 観光課
-----	------------	--------	-----------

設定根拠	按針祭の記念イベントによる交流促進を図る指標として、集客数が適当であると考えため。記念イベントの規模等を勘案し、按針祭の人出に対し約1割の増加を目標とする。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		－ 万人	(新規)	－	2	－	－	－		2 万人
実績値			－	1.5	4.2	－	－	－		

実績値の計算方法	市発表の人出		
----------	--------	--	--

評価	E	評価の理由	令和2年度は未実施のため
----	---	-------	--------------

課題	新型コロナウイルス感染症の感染が拡大したことにより、イベントの実施方法について、見直していく必要がある。		
----	--	--	--

今後の取組	一時的な集客しか見込めないイベントによる集客だけではなく、いつ来ても同じように楽しめる観光地となるよう施策を検討していく。		
-------	---	--	--

No.27

基本目標	2 新しいひとの流れをつくる
具体的な施策	③ 地域の商業活性化

KPI	事業の利用団体数	指標担当部課	観光経済部 産業課
-----	----------	--------	-----------

設定根拠	地域の商業活性化のためには、商店街等が直面する課題等を抽出し、創意工夫により実施するにぎわいづくり事業等を支援することで、魅力ある商店街の創出を図ることが必要であるため、数値は過去実績の平均利用団体数から設定した。目標値については、平成27年度から平成30年度の実績、令和元年度の見込団体数、令和2年度目標数の合算数値とする。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
5 団体		26	3	3	3	3	3	23(累計) 団体	令和2	
実績値			4	3	6	4	3	24(累計)		

実績値の計算方法	伊東市商業パワー全開事業実績		
----------	----------------	--	--

評価	B	評価の理由	目標値を達成したため
----	---	-------	------------

課題	商店街組織の弱体化などの要因で、毎年度同じ団体の利用となる傾向があるため、他の団体への利用促進が必要である。		
----	--	--	--

今後の取組	商店街団体はもとより商店街以外の団体への積極的な周知を徹底し、利用促進を図っていく。		
-------	--	--	--

No.28

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	① 子育て世帯の経済的支援の推進

KPI	出産・子育て支援に関する満足度	指標担当部課	健康福祉部 子育て支援課
-----	-----------------	--------	--------------

設定根拠	子育て世帯の経済的支援が充実していれば、満足度の向上に繋がっていくため。満足度の従前値を考慮し、目標値を80%に設定し、徐々に目標値に近づけていくこととした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
			54.8 %	26	59.8	64.8	69.8	74.8		
実績値			51.1	51.9	55.1	58.8	54.5	62.0		

実績値の計算方法	アンケート調査に基づく値		
----------	--------------	--	--

評価	C	評価の理由	5年間の中で最高値となり、かつ、基準年度を上回っているが、目標値に達していないため
----	---	-------	---

課題	子育て支援への満足度をさらに高めていくためには、経済的支援となる各種助成事業のほか、子育て世代から公園整備等の要望があり、環境整備も重視されていることが窺えることから、総合的な施策が必要である。		
----	---	--	--

今後の取組	今後も子どもの居場所の整備を推進するなど、さらなる子育て支援事業について検討していく。		
-------	---	--	--

No.29

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	② 安心して妊娠・出産・子育てができる環境づくり

KPI	地域ぐるみの子育て支援実施箇所数	指標担当部課	健康福祉部 子育て支援課
-----	------------------	--------	--------------

設定根拠	妊娠期から子育て期までの様々なニーズに対応する総合体制の整備等を表す指標として、「地域ぐるみの子育て支援実施箇所数」が適当であり、市内各地域(宇佐美地区、対島地区等)で実施を目指すため、6箇所実施を最大目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
一 箇所		(新規)	2	3	4	5	6	6 箇所		令和2
実績値			1	1	4	4	4	4		

実績値の計算方法	実施済みの箇所数									
----------	----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	C	評価の理由	幼児教育課で実施している子育て支援事業と併せると、市内に子育て支援を実施している施設は増加しているが、目標値に達しなかったため							
----	---	-------	---	--	--	--	--	--	--	--

課題	子育て期の保護者の様々なニーズに応えることができる人材の育成等に努めていく必要がある。									
----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	令和3年度以降も子育て世代のニーズ(子育て支援を実施する場所についてのニーズ)の把握に努める。また、従事する職員の人材育成や他課で実施している子育て支援事業との連携について検討していく。									
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.30

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	③ 周産期及び小児医療体制の推進

KPI	産科、小児科(療育)に携わる医師数	指標担当部課	健康福祉部 子育て支援課
-----	-------------------	--------	--------------

設定根拠	女性が安心して出産、子育てができるよう、小児医療の充実を図るため、医師数計10人を目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
産科 5人 小児科(療育) 0人		26	5 1	5 1	6 2	6 2	7 3	7人 3人	令和2	
実績値			4 0	5 0	4 0	3 0	3 0	3 0		

実績値の計算方法	市内病院に従事する、産科・小児科(療育)の常勤医師数		
----------	----------------------------	--	--

評価	D	評価の理由	市内に産科のある医療機関は2医療機関で、産科の常勤医師は3人と前年と同様である。療育医療については、医療を提供できる医療機関が無いため
----	---	-------	---

課題	市内医療機関の産科常勤の医師数は変わらず、非常勤の医師が所属し、対応していることが課題である。療育が必要な児は他市で受診しており、市内でできるよう療育体制を構築する必要がある。		
----	--	--	--

今後の取組	安心して妊娠、出産、育児できるように、医療機関との情報交換を密にし、体制づくりに努める。		
-------	--	--	--

No.31

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	④ 妊娠・出産のための健康づくりと正しい知識の普及

KPI	正しい知識についての理解度	指標担当部課	健康福祉部 子育て支援課
-----	---------------	--------	--------------

設定根拠	市内の中高生を対象に行うため、全体の校数に対する実施校数の割合を理解度とする。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		(新規)	20	40	60	80	100	100 %		令和2
実績値			11.1	22.2	33.3	44.4	44.4	44.4		

実績値の計算方法	実施校数(累積)÷9(市内中学5校、高校3校、定時制高校1校)									
----------	---------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	C	評価の理由	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大のため事業が実施できず、目標値を達成していないため							
----	---	-------	---	--	--	--	--	--	--	--

課題	事業の必要性について、学校関係者に十分な理解を求め実施数を増やしていくことが必要である。									
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	今年度は、4校で事業を実施する予定で新しく商業高校も加わる。内容の充実を図るとともに、実施校が増えるように事業の理解を関係者に求めていく。									
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.32

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑤ ひとり親家庭等の自立促進

KPI	ひとり親家庭等の相談件数	指標担当部課	健康福祉部 子育て支援課
-----	--------------	--------	--------------

設定根拠	相談件数が多いということは、ひとり親家庭において、自立したい家庭の自立への道筋を立てるとともに、自立への意識の向上にもつながるため、目標値を母子・父子自立支援事業計画時に設定した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		一件	(新規)	—	32	65	97	130		130 件
実績値			—	39	63	60	64	91		

実績値の計算方法	相談件数実績値		
----------	---------	--	--

評価	C	評価の理由	目標値を達成していないため
----	---	-------	---------------

課題	相談内容は、求職の相談が最も多く、問題解決を図るには、就労による子どもの預け入れの問題もあるため、関係機関と更なる連携が必要である。なお、相談件数は増加しているものの、目標値を達成していないため、評価はCとしている。		
----	--	--	--

今後の取組	相談窓口の一層の周知とPRに努めるとともに、ひとり親家庭の自立促進に努める。		
-------	--	--	--

No.33

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑥ 子育てにおけるワーク・ライフ・バランスの推進

KPI	ファミリー・サポート・センター登録会員数	指標担当部課	健康福祉部 子育て支援課
-----	----------------------	--------	--------------

設定根拠	ファミリー・サポート・センターは、子育てを地域で相互援助する手伝いをする組織であるので、会員数が増えることが事業の充実に繋がっていくため。基準年度における事業の実施状況及びその後の実績値等を踏まえ、目標値を320人に設定した。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	実績値						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		基準年度	H27	H28	H29	H30	R1			
121 人		26	137	153	169	185	200	320 人	令和2	
実績値			189	228	245	285	322	315		

実績値の計算方法	実際に登録している件数		
----------	-------------	--	--

評価	C	評価の理由	しばらく活動がなく今後も活動予定がない会員が令和2年度中に一斉退会したため、計40名ほどの会員数が大幅に減少した。よって、目標値を若干下回ったため評価をCとした。
----	---	-------	---

課題	会員数を増やしていくため、継続して事業の充実を図っていくことが必要である。		
----	---------------------------------------	--	--

今後の取組	継続して会員数を増やしていくとともに、提供会員の質の向上を図り、利用者の利用のしやすさや満足度の向上に努めていく。また、幼児教育・保育の無償化では、要件を満たした利用者の利用料が無償となり、利用者の増加が想定されるため、特に提供会員の増加に努める。		
-------	--	--	--

No.34

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑦ 子どものふれあいの場の提供

KPI	児童館年間利用者数	指標担当部課	健康福祉部 子育て支援課
-----	-----------	--------	--------------

設定根拠	利用者が増えることによって、親子のふれあいの場が増えると考え、児童館年間利用者数を指標に設定した。基準年度における利用状況を踏まえ、最終年度の目標値を30,000人に設定した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
19,277 人		26	21,421	23,565	25,709	27,853	30,000	30,000 人	令和2	
実績値			17,479	17,916	15,665	13,961	13,557	7,733		

実績値の計算方法	利用者数実績		
----------	--------	--	--

評価	D	評価の理由	令和2年度の目標値を達成しておらず、かつ基準年度より数値が低下しているため(新型コロナウイルス感染症の影響もある。)
----	---	-------	--

課題	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、臨時休館や利用控えがあったことから大幅に利用者が減少した。今後も少子化が進行している中、利用者をいかにして増やしていくかが課題である。また、利用者のほとんどが車で来館するため、駐車場の確保が課題である。		
----	--	--	--

今後の取組	新型コロナウイルス感染症対策とのバランスを考え、また、コロナ収束後を見据える中で、利用者の増加に拘ることなく、子どもの居場所としての質の向上を図るとともに、利用者の声を聴き、施設の充実等を図っていく。		
-------	--	--	--

No.35

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑧ 保育の充実（ア 子育て親子のための安全・安心な遊び場の提供）

KPI	子育て世帯の保育所施設利用に係る満足度	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	---------------------	--------	-----------

設定根拠	保育所施設が子育て世帯が望むような状況になっているかを示す値であるため。現状の施設の状況を踏まえ、目標値は保護者アンケートの結果に基づく満足度90%に設定した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		— %	(新規)	75	75	75	80	90		90 %
実績値			—	73	74	73	78	85		

実績値の計算方法	保護者アンケートに基づく値									
----------	---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	C	評価の理由	目標値に達していないが、目標値に近づく伸びが見られたため							
----	---	-------	------------------------------	--	--	--	--	--	--	--

課題	通常保育及び休日保育を運営していく中で、老朽化が進んだ保育所施設を大規模な改修・改善することが課題となっている。									
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	計画的に既存施設の整備、改善に努めるとともに、認定こども園の整備について検討を行う。									
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.36

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑧ 保育の充実（イ 多様な保育事業の実施）

KPI	多様な保育事業取組に対する保育所利用者満足度	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	------------------------	--------	-----------

設定根拠	多様な保育事業が子育て世帯が望むような状況になっているかを示す値であるため。保育士や看護師の確保状況や施設の状況も踏まえ、目標値は保護者アンケートの結果に基づく満足度80%に設定した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		— %	(新規)	75	75	80	80	80		80 %
実績値			—	75	75	72	86	86		

実績値の計算方法	保護者アンケートに基づく値									
----------	---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	B	評価の理由	目標値を上回ったため							
----	---	-------	------------	--	--	--	--	--	--	--

課題	延長保育、病児保育などの実施には、保育士や看護師の確保、施設改修などが必要となっている。									
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	延長保育や病児保育の拡充など、保護者のニーズを見極めながら事業実施についての検討を行う。									
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.37

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑧ 保育の充実（ウ 地域における子育て支援拠点施設の充実）

KPI	地域子育て支援拠点施設利用者・要家庭支援者への取組や内容に対する満足度	指標担当部課	教育部 幼児教育課							
設定根拠	地域子育て支援拠点施設運営状況などが子育て世帯が望むような状況になっているかを示す値であるため。施設の開設状況等も踏まえ、目標値は保護者アンケートの結果に基づき満足度90%に設定した。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
— %		(新規)	75	75	80	80	90	90 %		令和2
実績値			—	60	67	66	73	79		
実績値の計算方法	保護者アンケートに基づく値									
評価	C	評価の理由	実績値は若干伸びているが、目標値に達していないため							
課題	子育て支援へのニーズ、子育ての悩みは多様化しているため、子育て支援センター・保育園・関係機関が連携して、様々なニーズに対応できるような事業実施に努めていく必要がある。									
今後の取組	健康福祉センター内の子育て支援センターすきっぷを中心に、関係機関と連携しながら子育て支援策を充実させる。									

No.38

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑧ 保育の充実（エ 待機児童解消に向けた取組の実施）

KPI	待機児童数	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	-------	--------	-----------

設定根拠	就労しながら安心して子育てができる環境を示す値として、待機児童数の削減が最も適すると思われる。 5年間で0人にすることを目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
25 人		27	25	25	20	10	0	0 人	令和2	
実績値			25	33	20	37	11	5		

実績値の計算方法	各年度4月1日現在の保育所待機児童数		
----------	--------------------	--	--

評価	C	評価の理由	待機児童数が対前年度比6人減となったが、目標値に達していないため
----	---	-------	----------------------------------

課題	定員に余裕があっても、希望する地域や年齢の受入枠と合わないことが課題となっている。 (令和3年度実績値1人)		
----	---	--	--

今後の取組	施設整備、一時預かり事業の実施、公立保育園における受入れ拡大策について検討する。		
-------	--	--	--

No.39

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑧ 保育の充実（オ 障がい児等への支援）

KPI	障がい児等の認可保育所受入れ及び相談支援に対する利用者満足度	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	--------------------------------	--------	-----------

設定根拠	発達が気になる児童等への対応状況が子育て世代が望むような状況になっているかを示す値であるため。 全ての利用者が満足することを目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
— %		(新規)	80	80	80	90	100	100 %		令和2
実績値			—	77	85	78	83	89		

実績値の計算方法	保護者アンケートに基づく値									
----------	---------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	C	評価の理由	実績値は若干伸びているが、目標値に達していないため							
----	---	-------	---------------------------	--	--	--	--	--	--	--

課題	支援が必要な園児数の増加に伴い、職員加配のための保育士確保が課題となっている。									
----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	職員加配、相談体制など個別の支援を中心として、支援体制の充実を図る。									
-------	------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.40

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑧ 保育の充実（カ 認定こども園（保幼一体化施設）の整備）

KPI	新設認定こども園数	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	-----------	--------	-----------

設定根拠	施策を示す値であるため。現状、認定こども園は市内にはなく、施設整備には年数を要するため、計画最終年度に1か所整備を目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
0 か所		26	0	0	0	0	1	1 か所	令和2	
実績値			0	0	0	0	0	0		

実績値の計算方法	認定こども園数		
----------	---------	--	--

評価	C	評価の理由	令和3年度開所に向け、令和2年度に民営の認定こども園を1園整備したが、開園に至っていないため。
----	---	-------	---

課題	対象園、建設地の選考などが課題となっている。		
----	------------------------	--	--

今後の取組	保育園・幼稚園の再配置を検討して計画的に整備を行っていく。		
-------	-------------------------------	--	--

No.41

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑨ 幼稚園教育の充実（ア 市立幼稚園の充実）

KPI	幼稚園に行くのを楽しみにしている園児の割合	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	-----------------------	--------	-----------

設定根拠	幼稚園運営を行う上で、幼稚園に行くのを楽しみにすることは、最も大切であるため。全ての園児が楽しみにすることを目標とした。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
99 %		26	99	99	99	100	100	100 %	令和2	
実績値			99	97	98	99	99	99		

実績値の計算方法	保護者アンケートに基づく値		
----------	---------------	--	--

評価	B	評価の理由	目標値にほぼ到達しているため
----	---	-------	----------------

課題	園児数の減少により、望ましい集団活動が実施できる教育環境の整備が必要となっている。
----	---

今後の取組	教育の質の向上を図るとともに、幼稚園の適正配置を検討し、園児及び保護者にとって望ましい教育環境の確保を進める。
-------	---

No.42

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑨ 幼稚園教育の充実（イ 市立幼稚園の子育て相談窓口の設置）

KPI	相談窓口設置に対する保護者の満足度	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	-------------------	--------	-----------

設定根拠	幼稚園相談窓口が子育て世帯が望むような状況になっているかを示す値であるため。全ての保護者が満足することを目標とした。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		— %	(新規)	98	98	98	98	100		100 %
実績値			97	98	98	98	98	97		

実績値の計算方法	保護者アンケートに基づく値		
----------	---------------	--	--

評価	B	評価の理由	目標値にほぼ到達しているため
----	---	-------	----------------

課題	相談内容が複雑で多様化しており、特別な専門知識が必要とされる場合の専門機関との連携を必要とすることが課題となっている。		
----	---	--	--

今後の取組	子育て支援専門研修の受講や園内研修などにより、幼稚園教諭の相談援助技術の向上に努める。		
-------	---	--	--

No.43

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑨ 幼稚園教育の充実（ウ 市立幼稚園の預かり保育の実施）

KPI	預かり保育を実施している市立幼稚園の数	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	---------------------	--------	-----------

設定根拠	施策の進行状況を具体的に示す値であるため。 令和2年度には全園での実施を目標とした。（総合戦略策定後に川奈幼稚園・宇佐美幼稚園宮川分園・富戸幼稚園・竹の台幼稚園・鎌田幼稚園（令和2年3月末）・南幼稚園（令和2年3月末）を休園した。）		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
一園		(新規)	0	2	5	10	9	5園		令和2
実績値			0	2	3	4	5	5		

実績値の計算方法	4月現在の実施数		
----------	----------	--	--

評価	B	評価の理由	目標値を達成したため
----	---	-------	------------

課題	有資格者(幼稚園教諭・保育士)の確保及び支援を必要とする園児が利用する際の職員応援体制の構築が課題となっている。		
----	--	--	--

今後の取組	幼稚園の通常保育終了後、園児従事職員が教諭から預かり保育講師と変わり、園児の体調管理や身体・心理的に適当な環境、支援の整備を図っていく。		
-------	--	--	--

No.44

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑨ 幼稚園教育の充実（エ 私立幼稚園の支援）

KPI	子ども子育て支援新制度に移行済の幼稚園数	指標担当部課	教育部 幼児教育課
-----	----------------------	--------	-----------

設定根拠	施策を具体的に示す数値であるため。 未移行の私立幼稚園の状況を考慮し、計画最終年度に新制度に移行する目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		1 園	27	1	1	1	1	2		2 園
実績値			1	1	1	2	2	2		

実績値の計算方法	各年度4月現在の幼稚園数									
----------	--------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	B	評価の理由	平成30年度より、本市私立幼稚園2園が子ども子育て支援新制度へ移行し目標値に達したため							
----	---	-------	---	--	--	--	--	--	--	--

課題	新制度の内容は複雑であるため、幼稚園職員や保護者に対し、支給認定手続、利用者負担額等の周知及び理解を図る必要がある。									
----	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	子ども・子育て支援新制度に基づく施設型給付費による運営費助成を行う。									
-------	------------------------------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No. 45

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑩ 学校における教育環境の整備

KPI	学校が楽しいと思う子どもの割合	指標担当部課	教育部 教育指導課
-----	-----------------	--------	-----------

設定根拠	子どもたち一人一人を大切にし、どの子ども生き生きと活動する学校を目指していることから設定		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
			(小学校)90.6% (中学校)82.0%	26	91% 82%	92% 84%	93% 86%	94% 88%		
実績値			89.9% 81.7%	89.7% 79.4%	90.4% 80.2%	89.9% 85.0%	88.6% 83.6%	90.2% 86.6%		

実績値の計算方法	子ども・保護者対象の学校評価における回答状況から算出		
----------	----------------------------	--	--

評価	D	評価の理由	実績値は改善しているものの、令和2年度の目標値を達成しておらず、かつ小学校においては基準年度の実績値を若干であるが下回っているため
----	---	-------	---

課題	引き続き、児童生徒が適切な対人関係を築く能力や、主体的に学ぶ意欲・態度を育てていくことが課題である。		
----	--	--	--

今後の取組	教育上特別な支援を必要とする児童生徒が増加する中で、学校生活における「困り感」を解消し、一人一人の個性や特性を大切にしながらきめ細やかな指導を行うため、各種支援員の適正配置に努める。 また、ICT機器の整備に伴い、学校における教育環境の変化に対応するため、校内研修などを積極的に行い教員及び支援員の資質向上を図る。		
-------	--	--	--

No.46

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑪ 地区青少年健全育成活動の活発化

KPI	放課後子ども教室数	指標担当部課	教育部 生涯学習課
-----	-----------	--------	-----------

設定根拠	地区青少年健全育成活動の施策を進める上で、放課後子ども教室数が指標の一つになるため。事業の現状を踏まえ、計画期間中に2教室増やすことを目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
5 教室		26	6	6	6	7	7	7 教室		令和2
実績値			5	5	5	6	5	5		

実績値の計算方法	放課後こども教室の開設数									
----------	--------------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	C	評価の理由	新規教室を増やすことはできたが、既存教室の実施団体の高齢化等により、教室を継続することが難しくなった団体もあり、目標値に達することができなかったため							
----	---	-------	--	--	--	--	--	--	--	--

課題	市内児童の放課後等の居場所の確保として、放課後子ども教室の必要性や利用者からの需要は高いとの認識を抱いている。市内各地区の子どもが地域の偏在なく公平に利用できるよう、市として全面的な支援体制を設けているが、担い手の発掘、育成、さらには、実施場所の確保に向けた小・中学校との合意形成等が大きな課題である。									
----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	新規人材の発掘を進めるとともに、学校や放課後児童クラブとの連携により、子どもの居場所づくりや体験活動の充実に努める。放課後こども教室の事業の主旨を会合等で周知し、この活動がより活発化していくよう実施団体に働きかけていく。									
-------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

No.47

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑪ 地区青少年健全育成活動の活発化

KPI	地域子ども会の会員数	指標担当部課	教育部 生涯学習課
-----	------------	--------	-----------

設定根拠	本施策を進める上で、地域子ども会の会員数が多くなれば活発化につながることから指標の一つになる。現状の会員数を踏まえ、目標値を1,200人と設定した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
1,088 人		26	1,100	1,100	1,100	1,150	1,200	- 人	令和2	
実績値			1,000	900	830	-	-	-		

実績値の計算方法	地域子ども会の会員数の合計		
----------	---------------	--	--

評価	E	評価の理由	平成29年度に市子ども会連合が休会となった事により、評価ができないため
----	---	-------	-------------------------------------

課題	市子ども会連合は、子どもの人数減少や活動機会の減少などの理由により、平成29年度から休会となったことから、既存の地域子ども会を存続させていくことが大きな課題である。		
----	--	--	--

今後の取組	市内出生数が減少しているが、地域子ども会の活動が衰退しないよう、保護者や子ども同士のネットワークを活用し子ども会への参加を促すほか、地域と連携しながら活動の維持に取り組んでいく。		
-------	---	--	--

No.48

基本目標	3 若い世代の結婚・出産・子育ての希望をかなえる
具体的な施策	⑪ 地区青少年健全育成活動の活発化

KPI	地域ぐるみの青少年健全育成活動参加者総数	指標担当部課	教育部 生涯学習課
-----	----------------------	--------	-----------

設定根拠	本施策を進める上で、多くの方が関わることで活発化につながることから本総数が指標の一つになる。現状の参加者の動向を踏まえ、目標値を500人と設定した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1	令和2			
450 人		26	500	500	500	500	500	500 人	令和2	
実績値			500	437	500	500	500	108		

実績値の計算方法	青少年健全育成活動参加者の合計		
----------	-----------------	--	--

評価	D	評価の理由	近年、子どもの数や青少年の非行等が減ってきている状況に鑑み、補導員及び補導回数削減を行ったことや、新型コロナウイルス感染症の影響により、青少年健全育成活動の実施が減少したこと、また、伊東市青少年育成市民会議が解散となった事により、目標値を達成できなかったため
----	---	-------	---

課題	地域や関係機関等の特定の方が長期間参加している状況であるため、次代を担う青少年が、豊かな人間性・社会性を身に着け地域とともに健やかに育つ事ができるよう、地域の大人が『青少年の健全育成』を地域の使命である旨認識するとともに、地域活動への積極的な参加にあわせ、地域ぐるみで青少年の成長を見守る事が課題である。		
----	--	--	--

今後の取組	地域、関係機関等と参加者の増加を図る方策などについて意見交換などを行いながら対応策を考えていく。		
-------	--	--	--

No.49

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	① 健康づくりの推進（ア 生活習慣病予防とがんの早期発見）

KPI	すべての死因における対県比標準化死亡比	指標担当部課	健康福祉部 健康推進課
-----	---------------------	--------	-------------

設定根拠	年齢構成の異なる地域間で、より正しく死亡状況の比較が出来るため。計画最終年度に県平均まで低下することを目標とした。
------	---

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
			男性108.6 女性106.4	21~25	106.88 105.12	105.16 103.84	103.44 102.56	101.72 101.28		
実績値			112.0 108.7	111.5 109.0	111.4 108.2	112.1 108.6	—	—		

実績値の計算方法	<ul style="list-style-type: none"> ・過去5年分の人口と死亡状況を用い、単年の結果のみに影響されない値としている。 ・県を100とし、死亡数が多いほど高い数値となる。 $\text{静岡県を標準としたSMR(標準化死亡比)} = \frac{\text{市町の5年間(死因別)死亡数}}{(\text{静岡県の5年間粗死亡率} \times \text{市町の5年間該当年齢階級別人口)の総和}} \times 100$									
----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	D	評価の理由	<ul style="list-style-type: none"> ・実績値(H26~H30: 男性112.1、女性108.6) ・平成26~30年度の最新データを基に評価することとし、従前値と最新データを比較すると、男性・女性とも「標準化死亡比」が高い状況であり、生活習慣病予防等施策の強化が必要である。
----	---	-------	--

課題	脳血管疾患及び急性心筋梗塞のSMRが高いことが課題である。
----	-------------------------------

今後の取組	生活習慣の改善による予防と検(健)診による早期発見・治療を推進するとともに、疾病についての知識の普及に努める。
-------	---

No.50

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	① 健康づくりの推進 (イ 歯科口腔衛生の充実)

KPI	歯科衛生教育年間延べ実施者数	指標担当部課	健康福祉部 健康推進課
-----	----------------	--------	-------------

設定根拠	早い時期から定期的に歯科健康教育を行うことで、虫歯や歯周病を予防し、市民の健康増進を図るため。基準年度における事業実施者数を踏まえ、目標値を6,000人に設定した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
3,956 人		26	4,364	4,773	5,182	5,591	6,000	6,000 人	令和2	
実績値			4,216	3,979	3,824	3,590	3,709	1,251		

実績値の計算方法	各種検診、健康教室等の実績		
----------	---------------	--	--

評価	D	評価の理由	新型コロナウイルス感染症の影響による飛沫防止等対策のため教育機会を失い、目標値を大幅に下回ったため
----	---	-------	---

課題	教師、保育者、保護者等が自ら歯科健康教育できる体制づくりを進める必要がある。		
----	--	--	--

今後の取組	歯科衛生士が出向いての歯科健康教育から、それぞれの指導者等が直接教育できるように、指導者育成を図りたい。		
-------	--	--	--

No.51

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	① 健康づくりの推進 (ウ 生きがいづくり・介護予防の推進)

KPI	元気な高齢者の割合	指標担当部課	健康福祉部 高齢者福祉課							
設定根拠	引きこもりがちな高齢者の社会参画を促すため、居場所づくりや介護予防の推進を図るとともに、活躍する場を提供し、元気に生活する高齢者を増やすことを達成するために適当な指標と考えた。 現状の割合を考慮し、85%を目標値に設定した。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
	84.3 %	26	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0	85.0 %		令和2
	実績値		84.4	84.0	84.4	84.5	84.1	83.5		
実績値の計算方法	介護保険第1号被保険者から要介護・要支援の認定を受けている高齢者の割合を引くことにより算定									
評価	D	評価の理由	要介護認定率が高くなる75歳以上の人口割合の上昇と新型コロナウイルス感染症拡大の影響による外出控えや、介護予防事業等の中止などがあったことに伴い要介護認定者が増加したことにより目標値が未達となり、かつ、基準年度の実績値を下回ったため							
課題	新型コロナウイルス感染症の影響が続く中での介護予防事業の展開と、高齢者の社会参画機会の減少への対応が課題となっている。									
今後の取組	感染症予防に十分配慮した上での介護予防事業の積極的な実施と、居場所等高齢者を支えるための活動を行う住民に対しての、市や地域包括支援センターの支援による地域づくりを推進していく。									

No.52

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	① 健康づくりの推進（エ 介護人材の育成）

KPI	ボランティア研修開催回数	指標担当部課	健康福祉部 高齢者福祉課
-----	--------------	--------	--------------

設定根拠	支援を必要とする高齢者に対し、多様なニーズに対応するサービスを提供するため、市内5圏域で生活支援や介護予防の担い手となるボランティア等の研修・育成を図る必要があることから、年3回以上の実施を目標値とした。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度					R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30					
一回		(新規)	1	1	1	1	1	年3回以上		令和2
実績値			—	2	6	3	3	2		

実績値の計算方法	ボランティアの研修回数		
----------	-------------	--	--

評価	B	評価の理由	生活支援サービスの担い手となるボランティアの育成を目的とした養成講座の実施については、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となってしまったが、既にボランティアとして登録している方に対しフォローアップ研修を1回実施した。また移動支援のセミナー開催について、新型コロナウイルス感染症拡大状況の中、その防止対策を実施した上で、全3回のうち1回開催できたことにより評価Bとした。
----	---	-------	--

課題	圏域ごとに偏りのないボランティアの養成と、サービス利用を希望する高齢者とのマッチングを進めていく必要がある。		
----	--	--	--

今後の取組	圏域ごとに配置した第2層生活支援コーディネーターを中心に、きめ細かな高齢者の生活支援・介護予防の基盤整備及び生活支援サービスの担い手の育成を進めるとともに、新規事業である移動支援については関係機関と連携し、関係者間での情報交換ができるよう、ネットワークづくりを積極的に行っていく。		
-------	--	--	--

No.53

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	① 健康づくりの推進（オ 介護が必要な高齢者への支援）

KPI	介護保険制度の満足度	指標担当部課	健康福祉部 高齢者福祉課								
設定根拠	要介護の状態にある高齢者が、住み慣れた地域で可能な限り暮らせるよう、介護サービス提供体制の整備・充実に努めるとともに、多様なニーズに合わせたサービスメニューの構築やサービスの質の向上への取組みを行い、高齢者の介護保険制度に対する満足度を高める。少なくとも従前値を上回る80%を目標値とした。										
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度	
79.9 %		25	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0	80.0 %以上		令和2	
実績値			—	79.4	—	—	—	—			
実績値の計算方法	介護サービス利用実態調査で、介護保険制度に「満足」「どちらかといえば満足」と回答した人の割合										
評価	E	評価の理由	介護サービス利用実態調査は令和元年度に実施されたが、国が示す当該調査の目的が要介護者の住宅生活の継続及び介護者の就労継続に主眼を置いた内容であったことから、満足度に関する調査項目を設定していなかったため								
課題	高齢者が要介護状態になっても在宅で可能な限り暮らすため、在宅介護者の介護に対する不安を取り除くとともに、在宅介護者が仕事と介護の両立を続けていけるよう、介護保険サービスの提供体制の充実を図る必要がある。										
今後の取組	介護保険事業計画に基づく施設整備や介護予防・日常生活支援総合事業に加え、介護給付の適正化事業を実施し、介護保険事業の円滑な執行に努める。										

No.54

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	① 健康づくりの推進 (カ 在宅医療、介護連携の推進)

KPI	取組圏域数	指標担当部課	健康福祉部 高齢者福祉課							
設定根拠	団塊の世代が75歳以上となる令和7年を見据え、地域包括ケアシステムの構築を推進するため、日常生活圏域ごとに在宅医療と介護の連携に取り組み、可能な限り地域で暮らせるよう高齢者を支援する。 全ての日常生活圏域での取組を目標とした。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
	— 圏域	(新規)	5	5	5	5	5	5 圏域		令和2
	実績値		5	5	5	5	5	5		
実績値の計算方法	地域ケア会議等を開催するなど、在宅医療・介護連携に取り組んでいる日常生活圏域数									
評価	B	評価の理由	5圏域全てにおいて高齢者支援に係る取組が行われ、各圏域に認知症地域支援推進員を配置したことで、より細やかな支援に向けた取組が行われたため							
課題	地域包括ケアの実現に向け、市民病院と各診療所との連携強化や在宅における看取りの体制構築、認知症施策をさらに推進していく必要がある。									
今後の取組	関係者間の連携強化を図るため、参加職種を増やした地域ケア個別会議の開催及び地域包括医療推進会議での顔の見える関係づくりを通じ情報共有に努める。また、住民の一人ひとりが、地域課題を「我が事」として捉えられるよう、普及啓発に取り組む。									

No.55

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	① 健康づくりの推進（カ 在宅医療、介護連携の推進）

KPI	在宅医療を行う医師会医師数	指標担当部課	健康福祉部 健康推進課
-----	---------------	--------	-------------

設定根拠	団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え、地域包括ケアシステムの構築を推進するため、市内の日常生活圏域(5圏域)ごとに在宅医療を実施する医師を確保することを目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
0 人		26	0	1	2	4	5	5 人	令和2	
実績値			0	7	8	8	8	9		

実績値の計算方法	伊東市医師会における在宅医療実施医師数		
----------	---------------------	--	--

評価	A	評価の理由	在宅療養支援診療所として9医療機関あり、市内5圏域のすべてをカバーしたため
----	---	-------	---------------------------------------

課題	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の地域包括ケアシステムに対する理解が低いことが課題である。 ・24時間往診体制に対する医師の負担が重いことが課題である。 		
----	--	--	--

今後の取組	医師会、市民病院を交えた地域包括ケアシステム構築に向けた会議等を実施するとともに、市民に対するPRを図っていく。		
-------	--	--	--

No.56

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	① 健康づくりの推進（カ 在宅医療、介護連携の推進）

KPI	伊東市民病院後方支援医師数	指標担当部課	健康福祉部 健康推進課
-----	---------------	--------	-------------

設定根拠	団塊の世代が75歳以上となる2025年を見据え、地域包括ケアシステムの構築を推進するため、市内の日常生活圏域(5圏域)ごとに在宅医療を実施する医師を確保し、それに伴い後方支援を行う伊東市民病院の医師を確保する。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
0 人		26	0	1	2	4	5	5 人	令和2	
実績値			0	1	1	3	3	3		

実績値の計算方法	医師会の在宅医療実施医師とともに連携し支援を行う伊東市民病院医師数		
----------	-----------------------------------	--	--

評価	B	評価の理由	在宅療養後方支援病院として在宅医療を実施する診療所の支援体制を整備し、在宅医療に関するプロジェクトを立ち上げ支援医師の選定を行っているものの目標医師数には達しなかったが、医師の指示のもと特定の医療行為を行う事が出来る特定ケア看護師を3人配置することで対応する事が出来ているため
----	---	-------	--

課題	市民の地域包括ケアシステムに対する理解が低いことが課題となっている。		
----	------------------------------------	--	--

今後の取組	医師会、市民病院を交えた地域包括ケアシステム構築に向けた会議等を実施するとともに、市民に対するPRを図っていく。		
-------	--	--	--

No.57

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	② 生涯学習活動の推進

KPI	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数	指標担当部課	教育部 生涯学習課							
設定根拠	生涯学習活動の参加回数によりどれだけ推進されているかの指標の一つになる。参加者の4割増加を目指した。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
2.23 回		26	2.41	2.59	2.77	2.94	3.12	3.30 回		令和2
実績値			2.48	2.44	2.40	3.24	3.13	2.23		

実績値の計算方法	生涯学習センター及びコミュニティセンターで実施した生涯学習活動の年間参加者延べ人数/伊東市人口									
評価	C	評価の理由	市民1人当たりの生涯学習活動の参加回数は、新型コロナウイルス感染症予防対策による活動自粛等のため減少し、令和2年度の目標値を達成することができなかったため							
課題	<p>市民の生涯学習活動を推進するため、市では市民大学、いでゆ大学、楽しく学ぶ子育て講座等、市民のニーズやあらゆる世代に対応した様々な講座の開設に努めているが、受講者の満足度向上や講座内容の一層の充実を図るほか、講座修了後のサークル活動への参加支援など、引き続き生涯学習への参加の機会を増やしていく必要がある。</p> <p>近年の生涯学習意欲の高まりや各種生涯学習活動の成果があらわれつつあるが、市内で活動しているサークル等団体の情報を積極的に収集するとともに、生涯学習情報「まなびのとびら」への掲載を通じて、学習情報の発信について更なる充実を図る必要がある。</p>									
今後の取組	今後は感染症対策に留意しながら市生涯学習活動の推進に努めるとともに、市民の生涯学習活動への参加回数が一層増加するよう、これまでの講座内容や取組を精査し新たな内容や取組を考えていく。									

No.58

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	③ 市民スポーツ活動の支援

KPI	スポーツ施設の年間延利用者数	指標担当部課	教育部 生涯学習課
-----	----------------	--------	-----------

設定根拠	「スポーツ指導者の養成」、「スポーツ大会や教室の実施」、「体育施設の整備」を進める上で、「スポーツ施設の年間延利用者数」が指標になる。利用者の毎年1%増を目指した。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度					R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30					
311,371 人		26	315,000	317,000	321,000	324,000	330,000	330,000 人		令和2
実績値			323,397	286,428	340,745	320,099	297,782	202,384		

実績値の計算方法	市民体育センター、市民運動場、かどの球場、大原武道場、学校開放屋内運動場・屋外運動場・夜間照明施設の年間利用者数		
----------	--	--	--

評価	D	評価の理由	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大対策として、施設の使用禁止や使用自粛要請の措置を講じた時期があった。その結果、令和2年度の目標値を達成しておらず、かつ基準年度より悪化したため
----	---	-------	---

課題	少子高齢化が進む中、スポーツ施設の年間延利用者数が減少傾向であるため、市民の誰もがそれぞれの体力や年齢、技術、興味、目的に応じていつでも、どこでも、いつまでもスポーツに親しむことができるための対策が必要である。		
----	---	--	--

今後の取組	伊東市社会教育施設長寿命化計画に基づいて施設の維持、管理、改修を計画的に行い、市民サービスの充実を図る。		
-------	--	--	--

No.59

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	④ 歴史・芸術文化の振興

KPI	歴史文化に触れた人数	指標担当部課	教育部 生涯学習課							
設定根拠	「歴史、芸術文化に触れる機会の創出」及び「歴史文化情報の発信」を進める上で、「歴史文化に触れた人数」が施策の指標になるため。入館者、参加者の3割増を目標とした。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
	11,587 人	26	12,300	13,000	13,600	14,000	15,000	15,000 人		令和2
	実績値		11,386	11,312	10,762	10,258	10,160	4,176		
実績値の計算方法	空太郎記念館入館者数、文化財管理センター入館者数、観光会館文化事業入場者数、文化財等に関する講座・教室参加者数、市史に関する講座・講演会参加者数									
評価	D	評価の理由	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大対策として、施設を閉館とした時期があった。また、各講座・教室・講演会の中止が相次いだ。その結果、令和2年度の目標値を達成しておらず、かつ基準年度より悪化したため							
課題	伊東市には、恵まれた自然環境がもたらす自然遺産が多く存在する。各地域には特色ある伝統芸能が多く存在し、市民による伝承を支援してきた。しかしながら、少子化や家族のライフスタイルの変化に伴い、これらを保存・伝承する担い手を将来にわたり確保することが課題となっている。									
今後の取組	市民への学習機会の提供や講座、インターネットなどによる情報発信を強化し、市民が郷土への愛着を強めることができる環境づくりを目指す。									

No.60

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	④ 歴史・芸術文化の振興

KPI	芸術文化に触れた人数	指標担当部課	教育部 生涯学習課
-----	------------	--------	-----------

設定根拠	「歴史、芸術文化に触れる機会の創出」及び「芸術文化活動の支援」を進める上で、「芸術に触れた人数」が施策の指標になるため。参加者の2割増を目標とした。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
13,029 人		26	13,480	14,060	14,630	15,100	15,680	15,680 人	令和2	
実績値			12,595	12,719	11,488	11,825	8,992	127		

実績値の計算方法	芸術祭への出演・出品人数、芸術祭の観客人数		
----------	-----------------------	--	--

評価	D	評価の理由	令和2年度は新型コロナウイルス感染症拡大対策として、芸術祭が文学部門を除いて中止となった。その結果、令和2年度の目標を達成しておらず、かつ基準年度より悪化したため
----	---	-------	---

課題	多くの市民が日頃から芸術文化活動を実践し、市は芸術祭を開催し文化意識の向上に努めているが、芸術文化に触れる人数が減少傾向にあることが課題となっている。		
----	---	--	--

今後の取組	策定された文化振興基本構想を基に、市民の自主的な活動の促進及び市と市民との協働を図りながら、文化の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進していく。		
-------	--	--	--

No.61

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑤ 国際交流の推進

KPI	国際交流に関する体験や行事に参加した割合						指標担当部課	企画部 秘書課		
設定根拠	本市では、外国人と楽しく共生できる地域社会を形成していく上で、地域における国際交流を活発に推進していくことを重要施策とし、伊東国際交流協会をはじめ国際交流団体と連携・協力し、市民と外国人が気軽に触れ合うことができる場を提供しており、国際交流の推進を測る指標として、市民満足度調査の設問のうち、国際交流に関する体験や行事等に参加した割合を指標として設定した。「参加したことはないが、機会があれば参加したい」人のうち、1割の人が参加することを目標に設定した。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
11.4 %		26	13.1	13.6	14.1	14.6	15.4	15.4 %		令和2
実績値			13.1	8.2	9.3	7.9	10.6	12.7		
実績値の計算方法	市民満足度調査の「国際交流に関する体験や行事に参加したことがありますか。」という設問に対し、「よく参加している」又は「参加したことがある」と回答した人の割合									
評価	C	評価の理由	実績値は上昇したものの、令和2年度の目標値を達成していないため							
課題	魅力ある国際交流イベントの実施及び広報の強化を進めていく必要がある。									
今後の取組	近年日本語教室や外国語教室等の需要が増えていることから、教室を利用する生徒にイベントの周知や会員の勧誘を行い、幅広い世代で参加できる国際交流イベントの内容を研究していく。									

No.62

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑥ 地域活動・市民活動への支援

KPI	まちづくり事業実施団体登録件数	指標担当部課	企画部 秘書課・企画課
-----	-----------------	--------	-------------

設定根拠	本市では、自治会等及び市民活動団体が自ら企画し実践するまちづくり事業に要する経費に対して補助金を交付することで、地域活動・市民活動を支援し、市民主体のまちづくりや地域活性化を推進していることから、補助対象団体数(登録件数)を指標とする。5年間で10件の増を目標とした。また、年度の延長に伴い、目標値をR1実績見込値の2件増とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
42 団体		26	44	46	48	50	52	76 団体		令和2
実績値			48	64	67	69	74	76		

実績値の計算方法	補助対象団体の数(行政区15、分譲地等自治会19、市民活動団体42)		
----------	------------------------------------	--	--

評価	B	評価の理由	市民活動団体として新たに2件の登録があり、目標値を達成したため
----	---	-------	---------------------------------

課題	市民活動団体を立ち上げようとしている方や未登録の市民活動団体へ、補助制度を周知していく必要がある。また、初めて補助制度を活用する団体へ手続方法等の周知が必要である。		
----	--	--	--

今後の取組	市民活動団体に対し、「魅力あるまちづくり事業補助金」の「申請の手引き」を直接送付することで、改正内容周知強化を図るとともに、ホームページ等を活用し補助金制度の周知をすることで、市民活動の更なる活性化を図る。あわせて、補助制度の仕組みや手続の方法が分からない方への相談対応をすることで、制度を活用しやすい環境づくりに努める。		
-------	---	--	--

No.63

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する									
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取組（ア 伊東市地震対策アクションプログラムの推進）									
KPI	完了アクション数						指標担当部課	危機管理部 危機対策課		
設定根拠	伊東市地震対策アクションプログラムに設定されている目標年度を基に32アクションと設定した。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
	7 アクション	26	11	15	20	32	32	32 アクション		令和2
	実績値		12	17	17	17	18	18		
実績値の計算方法	完了アクション数									
評価	C	評価の理由	目標値を達成できなかったため							
課題	整備への進捗はしてはいるものの整備率を100%にするのが困難なアクションが残されている。目標未達成のアクションの半数以上が、他課の担当となっている又は他課の協力が必要なアクションである(目標未達成アクションのうち9アクション)ことが課題となっている。									
今後の取組	他課の関連するアクションについては、進捗状況を確認し目標を達成できるよう働きかける。									

まち・ひと・しごと創生事業 令和2年度実績評価シート【具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標(KPI)】

令和3年7月作成

No. 64

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安全な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取組（イ 消防団の充実強化・活性化対策の推進）

数値目標	消防団員数	指標担当部課	危機管理部 危機対策課
------	-------	--------	-------------

設定根拠	伊東市消防団条例に規定されている団員定数を基に設定した。 条例定数506人を今後も維持することを目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度					R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	令和2				
506 人		26	506	506	506	506	506	506 人	令和2	
実績値			506	506	506	506	506	502		

実績値の計算方法	消防団員数実績		
----------	---------	--	--

評価	D	評価の理由	目標値を達成できなかったことに加え、基準年度より悪化してしまったため
----	---	-------	------------------------------------

課題	定数維持のため、若年者層を中心とした消防団員を確保することが課題となっている。		
----	---	--	--

今後の取組	消防団員の活動環境の整備を図り、市内事業所、各行政区、町内会等に消防団員募集を呼び掛け、若年者層を中心とした消防団員の確保に努める。		
-------	--	--	--

No. 65

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取組（ウ 公共施設の適正な維持管理）

KPI	公共施設の除却件数(累計)	指標担当部課	総務部 財政課
-----	---------------	--------	---------

設定根拠	伊東市公共施設等総合管理計画に沿った公共施設の維持管理を進めていくに当たり、老朽化や利用実態等により除却することが適当であると判断される施設を有しているため、公共施設の適正配置の観点から、除却を進めていくものである。 目標数値は伊東市公共施設等総合管理計画による。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
一 施設	(新規)	0	1	2	3	5	5 施設	令和2		
実績値		0	1	2	3	4	5			

実績値の計算方法	各施設主管課が実施した公共施設の除却件数を集計		
----------	-------------------------	--	--

評価	B	評価の理由	令和2年度において用途廃止済の市営住宅を除却し、目標値を達成したため
----	---	-------	------------------------------------

課題	各公共施設は各施設主管課により管理されており、除却の実施についても各主管課の判断によることから、市全体としての件数を調整することが困難である。		
----	---	--	--

今後の取組	各施設主管課に対し、伊東市公共施設等総合管理計画に沿った施設の維持管理及び計画的な除却等を推進していく。		
-------	--	--	--

No.66

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取組（エ 安全な水の安定供給）

KPI	料金値上げ	指標担当部課	上下水道部 水道課
-----	-------	--------	-----------

設定根拠	「安全、安心でおいしい水を安定的に供給する」ため、老朽化施設の更新や耐震化等を推進し、施設の適正な維持管理に努めていくとともに、「おいしい水を安価に提供していく」ために、水道料金の収納率向上や経費削減等、より一層効率的な事業運営に努めることから、「料金値上げ」額を指標に設定した。 計画期間中は料金改定を行わないことを目標とした。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
0 円		26	0	0	0	0	0	0 円	令和2	
実績値			0	0	0	0	0	0		

実績値の計算方法	料金改定額(令和2年度は行わなかった。)		
----------	----------------------	--	--

評価	B	評価の理由	給水収益の減少が続き厳しい状況ではあるものの、令和2年度決算においても79,453,487円の経常利益を計上し、黒字経営を保っている。また、余裕資金も1,505,371,520円確保しており、当面は料金改定の必要は無いと考えるため
----	---	-------	---

課題	施設等の老朽化が進んでいる中、当該施設等を更新するための財源確保に向け健全な経営を継続する必要がある。		
----	---	--	--

今後の取組	水道料金の収納率向上はもちろん、経常費用の更なる削減等の見直しに努め、黒字経営を維持していく。		
-------	---	--	--

No.67

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取組 (エ 安全な水の安定供給)

KPI	有収率(家庭等で使用した水量を、浄水場等につくった水量で除したもの)	指標担当部課	上下水道部 水道課
-----	------------------------------------	--------	-----------

設定根拠	「安全、安心でおいしい水を安定的に供給する」ためには、水利用の状況に応じた、施設の効率的な運営が求められる。有収率が低い場合は、漏水の発生が考えられ、施設の稼働率が高くても収益につながらないこととなるので、有収率の向上対策を講ずる必要があるため。概ね毎年1%の向上を目指す目標とした。		
------	--	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
69 %		26	71	72	73	74	75	76 %		令和2
実績値			71	74.7	75.1	74.6	73.3	71.0		

実績値の計算方法	(年間給水量) 8,251,726m ³ / (年間配水量) 11,615,689m ³ × 100 = (有収率) 71.0%									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	C	評価の理由	水道管の老朽化による漏水等の不明水の増加により、前年度より数値が下がり、令和2年度の目標値を達成出来なかったため
----	---	-------	--

課題	これまで進めてきた漏水対策により、水道管の老朽化による漏水発生対策として引き続き財政状況を勘案しながら、更に漏水調査の継続及び強化に努め、有収率の向上を図る必要がある。		
----	--	--	--

今後の取組	財政状況を勘案しながら漏水調査を強化するとともに、精度向上のための運用方法等について検証し、より効率的な漏水箇所の早期発見、修繕に努め、目標値の達成に努める。		
-------	---	--	--

No.68

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取組 (エ 安全な水の安定供給)

KPI	基幹管路の耐震化率	指標担当部課	上下水道部 水道課
-----	-----------	--------	-----------

設定根拠	「災害に強いライフラインづくり」のため、施設の耐震化を進めていく。 特に、避難所や医療施設等の重要給水施設の災害時の断水を防止するため、これらの施設へ配水している管路の耐震化を優先的に進めていくため。計画的に事業を進めることにより、計画最終年度には70%の耐震化率を達成することを目標とした。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
39 %		26	45.2	51.4	57.6	63.8	70	70 %	令和2	
実績値			49.6	55.4	56.5	56.7	57.5	58.0		

実績値の計算方法	(令和2年度末 耐震化済延長) 17,181m/(重要給水施設全管路延長) 29,629m × 100 = (耐震化率) 58.0%		
----------	--	--	--

評価	C	評価の理由	毎年度少しずつ管路の耐震化を図ってきたが、目標値を上回ることができなかったため
----	---	-------	---

課題	重要給水施設への管路は管径が大きいことから、工事費も増大するため、進捗を図るためには十分な財源を確保する必要がある。		
----	--	--	--

今後の取組	重要給水施設への管路耐震化は急務であるため、耐震化率100%達成を目指し、事業の精査を行い計画的に進めていく。		
-------	---	--	--

No.69

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取り組み(オ 生活排水対策の充実)

KPI	下水道管きよの長寿命化、耐震化実施率(計画に対する実施率)	指標担当部課	上下水道部 下水道課
-----	-------------------------------	--------	------------

設定根拠	市民生活の安心・安全確保を図るためには、適切な汚水処理を継続する必要がある、膨大な下水道施設の効率的な維持管理(改築・更新)及び耐震化を図るうえで、下水道長寿命化計画及び下水道総合地震対策計画を策定したことから、本計画に基づき下水道管きよの長寿命化、耐震化を進めるため。
------	---

従前値	(単位)	基準年度						R2(目標値)	(単位)	目標年度
		H27	H28	H29	H30	R1				
45 %		26	52	59	66	73	80	87 %	令和2	
実績値			50	61	66	77	85	88		

実績値の計算方法	長寿命化:「令和2年度までの実績値1,874m/1,799m×100=104.2%A 耐震化:「令和2年度までの実績値34.0km/47.7km×100=71.3%B 実績値=(A+B)/2=87.8%≒88%								
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	B	評価の理由	目標値を達成したため
----	---	-------	------------

課題	管きよの長寿命化は目標値以上に進捗したものの、限られた予算において長寿命化を優先してきたことから、耐震化の進捗が芳しくないことが課題である。
----	--

今後の取組	今後は管きよの耐震化を重点的に推進していきたい。
-------	--------------------------

No.70

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取り組み(オ 生活排水対策の充実)

KPI	下水道処理施設、最初沈殿池の長寿命化、耐震化(6池中)	指標担当部課	上下水道部 下水道課
-----	-----------------------------	--------	------------

設定根拠	安全で安心な市民生活の確保及び公共水域の水質保全を行うためには、安定した汚水処理の継続が求められる。このため、処理場施設の機能を維持する必要があることから、老朽化・耐震化等を計画的に実施するため「湯川終末処理場長寿命化計画」を策定している。この長寿命化計画に基づき、設備機器の長寿命化及び耐震化を実施していくため。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
			0 池	26	1	1	2	2		
実績値			1	1	2	2	2	2		

実績値の計算方法	平成29年度に発注した工事で、最初沈殿池の改築・耐震を行ったため、2池とした。		
----------	---	--	--

評価	B	評価の理由	計画通りに事業を推進したため
----	---	-------	----------------

課題	稼働中である水処理施設の耐震化を行うには、機械設備等の更新に合わせて行なわなければならないため、整備が完了するまでに時間を要することが課題となっている。		
----	--	--	--

今後の取組	今後も事業費の平準化を図りながら、長寿命化及び総合地震対策計画に基づき、残りの水処理施設の長寿命化及び耐震化を図っていく。		
-------	---	--	--

No.71

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心な暮らしを守るとともに、地域と地域を連携する
具体的な施策	⑦ 安全・安心な暮らしを守るための取り組み(オ 生活排水対策の充実)

KPI	水洗化率	指標担当部課	上下水道部 下水道課
-----	------	--------	------------

設定根拠	公共水域の水質保全や生活環境の向上を図り、快適な市民生活を送るため「汚水、排水」の適切な処理が必要不可欠であり、このため、必要な環境整備を行うとともに、公共下水道の供用開始区域においては下水道への接続世帯を増やすことが求められるため。		
------	---	--	--

従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
			80.3 %	26	81.7	83.7	85.7	87.7		
実績値			80.6	81.1	81.9	82.3	82.8	83.2		

実績値の計算方法	下水道接続済世帯数(11,591世帯)/下水道整備済世帯数(13,933世帯) × 100									
----------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

評価	C	評価の理由	従前値よりは増加しているが、目標値に届かなかったため							
----	---	-------	----------------------------	--	--	--	--	--	--	--

課題	未接続世帯の多くが高齢者世帯で、次世代の同居家族がいない状況において、高額な接続工事費が生じる下水道への切り替えに踏み切れない理由が多く見られることが水洗化率向上の課題となっている。									
----	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

今後の取組	下水道未接続世帯へのチラシ投函(訪問)を継続するとともに、高齢者未接続世帯への効果的な促進手段を検討していく。									
-------	---	--	--	--	--	--	--	--	--	--

まち・ひと・しごと創生事業 令和2年度実績評価シート【具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標(KPI)】

令和3年7月作成

No.72

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する									
具体的な施策	⑦ 安全・安心なくらしを守るための取組（カ 道路施設の長寿命化）									
KPI	道路施設の長寿命化完了数					指標担当部課		建設部 建設課		
設定根拠	道路施設長寿命化修繕計画に基づき、道路施設の長寿命化を計画的に進め、適正な維持管理を図るため。目標値は、道路施設長寿命化修繕計画による。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
1 か所		26	3	4	6	8	10	10 か所		令和2
実績値			3	3	5	5	5	10		
実績値の計算方法	道路施設の長寿命化完了数									
評価	B	評価の理由	国交付金の配分率低下により事業実施を見送った年度もあったが、その後持直し、目標値を達成することができたため							
課題	現在は舗装のみを対象に長寿命化修繕を実施しているが、今後は法面盛土等も長寿命化修繕計画を策定し、修繕を行っていく必要がある。また、国交付金事業の決定を受け事業実施しており、交付率に左右されるため目標達成には予算の確保が重要となる。									
今後の取組	引き続き、舗装長寿命化修繕計画に基づき修繕工事を実施していく。									

まち・ひと・しごと創生事業 令和2年度実績評価シート【具体的な施策・施策ごとの重要業績評価指標(KPI)】

令和3年7月作成

No.73

基本目標	4 時代に合った地域をつくり、安心なくらしを守るとともに、地域と地域を連携する									
具体的な施策	⑦ 安全・安心なくらしを守るための取組（キ 橋りょうの長寿命化）									
KPI	橋りょうの長寿命化完了数					指標担当部課		建設部 建設課		
設定根拠	橋りょう長寿命化修繕計画に基づき、橋りょうの長寿命化を計画的に進め、近接目視による点検を行い、適正な維持管理を図るため。目標値は橋りょう長寿命化修繕計画による。									
従前値	(単位)	基準年度	H27	H28	H29	H30	R1	R2(目標値)	(単位)	目標年度
4 橋		26	4	7	10	12	14	25 橋		令和2
実績値			5	8	10	16	21	32		
実績値の計算方法	橋りょうの長寿命化完了数									
評価	A	評価の理由	この事業は、国策事業であるため交付金の交付率が高く、目標値以上に進捗することができたため							
課題	現在、予防保全の観点から計画的に167橋を定期的に点検を実施しているため、新たに修繕が必要となる橋りょうが増加することが予想されることから予算確保が重要となる。									
今後の取組	引き続き、橋りょう長寿命化修繕計画に基づき修繕工事を実施していく。									

No.74

事業名	ずっと住みたい また来たい いう創生事業	指標担当部課	企画課・観光課			
事業内容①	【デジタルマーケティング事業】 本市を国内外に広くPRすること及び、どのような地域のどのような層(性別、年齢、趣味趣向等)に注目されているのかを分析していくため、国外用、国内用の動画をそれぞれ制作し、Youtubeの「TrueViewインストリーム広告」等を活用したマーケティング事業を実施する。	実績額 (円)	29,999,750	交付金 充当額 (円)	14,999,875	
事業内容②	【ロケツーリズム推進事業】 行政と民間が連携してロケ支援・受け入れを実施するために、官民連携の組織(仮称)伊東市ロケーションサービスを設立する。ロケ支援及び受け入れを進めていくのと並行して、これまでのロケ受け入れの成果や、本市のこれからの取り組みなどを、ロケ情報誌等に掲載しPRしていくほか、実際にロケが行われた「ロケ地」を巡るためのパンフレットの作成等を実施し、観光客に市内を回遊・滞在させ、伊東市を多面的に知る機会を創出する。	実績額 (円)	11,547,019	交付金 充当額 (円)	5,773,509	
事業内容③	【移住定住促進現地ナビゲート事業】 移住検討者を対象とした現地案内を実施し、伊東市の魅力を伝えるとともに、移住後の生活イメージを持っていただくことで移住定住促進を図る。	実績額 (円)	844,500	交付金 充当額 (円)	422,250	
事業内容④	【移住定住促進情報発信事業】 情報発信のツールとして、移住希望者にとって有用な情報に特化した新規ホームページ及びパンフレットを作成し、移住を検討している方へ発信することで、移住定住促進を図る。	実績額 (円)	3,025,550	交付金 充当額 (円)	1,512,775	
KPI ①	市町村魅力度ランキング(出典:地域ブランド調査) 単位:位	KPI 設定根拠	動画広告やロケツーリズムを通じた本市の認知度向上を示す具体的な指標であるため			
		KPIの 計算方法	㈱地域ブランド総合研究所が実施する「地域ブランド調査」のランキング			
		KPIの 目標・実績	従前値(R1)	R2	R3	R4
			目標値	50	40	30
		実績値	77	79		
評価	D	評価の理由	目標値及び従前値を下回っているため			
KPI ②	観光交流客数(静岡県発表) 単位:万人	KPI 設定根拠	動画広告やロケツーリズムを通じた本市の認知度向上を示す具体的な指標であるため			
		KPIの 計算方法	静岡県が発表する観光交流客数			
		KPIの 目標・実績	従前値(R1)	R2	R3	R4
			目標値	665	680	700
		実績値	655	483		
評価	D	評価の理由	目標値及び従前値を下回っているため			
KPI ③	メディア露出に伴う広告換算費 単位:円	KPI 設定根拠	ロケツーリズムによるメディア露出を広告費に換算することで具体的な費用対効果分析の指標となるため			
		KPIの 計算方法	露出したメディア・ネットワーク毎に放送広告料金表(社団法人日本広告業協会発行)を参考にして積算			
		KPIの 目標・実績	従前値(R1)	R2	R3	R4
			目標値(累計)	100,000,000	200,000,000	300,000,000
		実績値(累計)	0	60,000,000		
評価	C	評価の理由	目標値を下回っているため			
KPI ④	移住相談件数 単位:件	KPI 設定根拠	動画広告やロケツーリズムを通じた本市の認知度向上に伴い、移住相談件数にどのように影響するかを測る適切な指標と考えるため			
		KPIの 計算方法	企画課で受け付けた移住相談件数と現地ナビゲート事業で受け付けた移住相談件数の合計			
		KPIの 目標・実績	従前値(R1)	R2	R3	R4
			目標値	120	140	160
		実績値	100	131		
評価	B	評価の理由	目標値を上回っているため			
課題	新型コロナウイルス感染症の影響により県境を跨ぐ移動が制限され、観光交流客の増加を見込むことができない状況にあるが、収束後を見据えた国内外の観光需要を繋ぎ止めておくことが課題となっている。一方で、新型コロナウイルス感染拡大をきっかけに首都圏では働き方が見直され、出社を伴わず場所を選ばないワークスタイルであるテレワークの導入が推進されたことにより、首都圏から地方への移住の機運も高まりを見せている。この状況の中で、本市への移住を検討している方々からの相談件数は増加しつつあるが、対面型の移住相談や現地ナビゲートをこれまでと同様に展開することが難しく大きな課題となっている。					
今後の取組	新型コロナウイルス感染症の収束の目途が立たない状況の中で、本市の観光交流客の約8割を占める関東圏を始めとした国内及び、渡航の制限が解かれた後に日本への旅行を検討している国外の見込み客に対し、デジタルマーケティングの手法による情報発信を継続して実施し、観光需要の繋ぎ止めを図っていく。 移住・定住促進についても、ターゲットとして捉えている層に対し有益な情報を届けていくために、本事業で開設した「伊東市移住定住サイト」をより充実したものにしていくとともに、デジタルマーケティングの手法を用いた情報発信及び配信結果の分析を進めることで周知拡大を図るとともにターゲットの精度を上げていく。また、移住相談については、非対面型のオンライン移住相談会を積極的に開催し、新型コロナウイルス感染拡大防止に努めた現地ナビゲート事業を展開していく。					